

**令和元（2019）年度
AIIT シニアスタートアッププログラム**

事業成果報告書

令和2年12月
東京都公立大学法人
東京都立産業技術大学院大学

はじめに

世界中で経験したことがない超高齢化国家である我が国は、大きな転換期を迎えています。

こうした中、人生 100 年時代を豊かに過ごせる生涯現役都市となるための実践として、東京都立産業技術大学院大学(AIIT)は、「AIIT シニアスタートアッププログラム」を平成 30 年度より開講しています。

起業に挑戦するシニア層の方を後押しし、起業に必要とされる高いレベルの知識及びスキルを短期間で修得することを目指すプログラムにより新たな学びの場を提供することができました。令和元年度は、多様な経験を有する極めて熱心な 25 名の方が受講し、基礎科目、事例研究型科目、PBL型科目に合格した 21 名の方が修了されました。

東京都立産業技術大学院大学は、専門職大学院として、広く横断的な視野で問題解決できるコンピテンシー(業務遂行能力)を身につけるため PBL(Project Based Learning)型教育を導入しています。令和元年度は、「檜原村における地域ビジネスを考える」をテーマとして PBL に取り組みました。1泊2日の合宿を行い事業訪問や現場視察の上アイデアソンを実施し、地域ビジネスの提案を行いました。

なお、平成 31 年 4 月より学校教育法 105 条関連規則の改正により、履修証明プログラムの総時間の要件が 120 時間から 60 時間へ引き下げられ、本プログラムは履修証明プログラムとなり、学校教育法に基づいた修了証明書が発行できるようになりました。また、令和 2 年度からは文部科学省認定の「職業実践力育成プログラム」(BP:Brush up Program for professional)として実施いたします。国の政策の後押しもあり、受講生にも一層の魅力向上を図り、社会人やシニア層の多様なニーズに応えることが求められています。

本プログラムの実施にあたりまして、東京都、品川区、檜原村と産業界のご協力をいただきましたことに対して、深く感謝いたします。

令和 2 年 12 月

板倉 宏昭

目次

| | | |
|----------|-----------------------------|-----------|
| 1 | 事業の概要 | 5 |
| 1.1 | 事業の目的 | 5 |
| 1.2 | 事業の意義・必要性 | 5 |
| 1.3 | 事業の体制 | 6 |
| 1.4 | 産学公の連携..... | 6 |
| 1.5 | 令和元年度事業の成果 | 7 |
| 2 | 活動報告(令和元年度) | 9 |
| 2.1 | 運営委員会 | 9 |
| 2.1.1 | 第1回 運営委員会 | 9 |
| 2.1.2 | 第2回 運営委員会 | 9 |
| 2.1.3 | 第3回 運営委員会 | 10 |
| 2.1.4 | 第4回 運営委員会 | 10 |
| 2.1.5 | 第5回 運営委員会 | 11 |
| 2.1.6 | 第6回 運営委員会 | 11 |
| 2.1.7 | 第7回 運営委員会 | 12 |
| 2.1.8 | 第8回 運営委員会 | 12 |
| 2.1.9 | 第9回 運営委員会 | 13 |
| 2.1.10 | 第10回 運営委員会 | 13 |
| 2.1.11 | 第11回 運営委員会 | 14 |
| 2.2 | 講演会..... | 15 |
| 2.2.1 | 講演会次第..... | 15 |
| 2.2.2 | 基調講演 | 16 |
| 2.2.3 | パネルディスカッション | 17 |
| 2.3 | 説明会 | 17 |
| 2.3.1 | 説明会次第..... | 17 |
| 2.4 | PBL キャンプ | 17 |
| 3 | 成果報告(令和元年度) | 20 |
| 3.1 | 教育プログラム(カリキュラム及び教材開発) | 20 |
| 3.1.1 | 修得すべき能力 | 20 |

| | | |
|--------------------|-----------------------------|---------------|
| 3.1.2 | 教育内容(授業科目等)、教育方法 | 20 |
| 3.1.3 | 授業期間 | 25 |
| 3.1.4 | 履修資格 | 26 |
| 3.1.5 | 成績評価方法・基準 | 26 |
| 3.1.6 | 修了要件 | 26 |
| 3.1.7 | 担当教員 | 27 |
| 3.2 | 当教育プログラム運用状況..... | 28 |
| 3.2.1 | オリエンテーション | 28 |
| 3.2.2 | 東京経済事情 | 29 |
| 3.2.3 | 経営戦略要論 | 30 |
| 3.2.4 | マーケティング要論..... | 31 |
| 3.2.5 | ファイナンス要論 | 32 |
| 3.2.6 | IT イノベーション要論..... | 34 |
| 3.2.7 | 事業デザイン要論 | 35 |
| 3.2.8 | シニアスタートアップ特論 | 36 |
| 3.2.9 | プログラム運用結果 | 37 |
| 3.2.10 | PBL 成果発表会 | 37 |
| 3.3 | 修了アンケート結果..... | 42 |
| 付録..... | | 45 |
| 4.1 | 令和元(2019)年度 シラバス..... | 47 |
| 4.2 | 令和元(2019)年度 募集要項 | 61 |
| 4.3 | 令和元(2019)年度 講演会 パンフレット..... | 79 |

1 事業の概要

1.1 事業の目的

少子高齢化が進展する我が国及び先進諸国の中で、今後、我が国の経済が持続的成長を確保する為には、これまで成長を支えてきた各企業の定年退職者層及び予備軍(以下「シニア」)を、起業という選択肢と向き合い、果敢に挑戦する高度人材として育成することが不可欠である。特に、社会人の学び直しによる高度人材育成を特色とした「専門職大学院」である本学が、高齢化先進都市である東京都において、生涯教育モデルを提示することに意義がある。このため、当プログラムでは、大学院、東京都、産業界等が協働して、シニアを対象に、起業に必要なとされる高いレベルの知識・スキルを短期間で修得できる大学院プログラムを開発・構築し普及する取組によって、シニア人材養成を図るとともに、大学院教育(修士課程レベル)でのシニア学び直しを推進する。

1.2 事業の意義・必要性

本プログラムは、起業家(アントレプレナー、イントレプレナー)や中小企業の事業承継を目指す者を受講対象としており、現実の起業・創業や、事業承継のニーズに応えることを目的としている。我が国企業数の大多数を占め経済を下支えしてきた中小企業の活性化につき、その新規創業や新事業創造に向けた起業家の教育、スムーズな事業承継や新事業展開には、成長基盤育成と共に日本経済の成長・発展にもかかる課題が多く残されている。特に、『日本再興戦略』改訂2014(新成長戦略)では、開業率の倍増計画が掲げられ、新規創業や新事業創造の担い手となる起業家の教育が大きな課題となり、その担い手としてのシニア層への起業教育は、高齢化社会進展に伴う雇用創出の側面からも重要と考えられる。本講座は、起業に必要な基礎的な知識・スキルを学んだ後に、不確実性高まる社会環境において、どのようなビジネスモデルが求められるか等、東京都並びに産業界と連携した実践事例を取り扱うことで、起業や事業承継を目指すシニア受講生のニーズに応える内容のプログラムであり、中小企業の活性化に寄与するものである。

また、本プログラムは、起業・創業にかかるビジネスモデルの題材として、地域に根差した課題を取り扱うこととしており、地域活性化にも寄与するものである。「日本再興戦略 2016」においても重要課題と位置づけられた地方創生については、国内構造的課題である少子高齢化と地域経済縮小化克服のためのイノベーション創造が求められており、起業家に対しても、その役割貢献が期待される処である。本プログラムは、東京都、(公財)東京都中小企業振興公社等との協力体制のもとに実施することで、地域の活性化に関連する題材を扱い、ビジネスモデルを構築するという演習型の科目を含む。受講生が地域課題に真摯に向き合い、本講座で獲得した知識を活用して新規ビジネス創出に取り組

み、その成果を発表することで地域に新たな知見を提供するのみならず、修了後において現実に地域に根差した起業・創業を行うこととなれば、地域振興としての効果も一層期待される処である。

1.3 事業の体制

本プログラムでは、「AIIT シニアスタートアッププログラム運営委員会」を設置し、事業推進体制を構築した上で、事業を推進している。協議の場としての運営委員会は以下の役割等を担当し、年間 12 回程度開催する。

- 当事業の運営統括(計画・進捗・成果の確認等)
- カリキュラム、授業科目の内容に関する議論
- プログラムの仕組みに関する議論
- シニアの学び直しのための環境に関する議論

表 1: AIIT シニアスタートアッププログラム運営委員会 委員名簿

| 団体名 | 職名 | 氏名 | 備考 |
|-----------|-----------------------|-------|--------|
| 産業技術大学院大学 | 学長 | 川田 誠一 | アドバイザー |
| 産業技術大学院大学 | 情報アーキテクチャ専攻 教授 | 板倉 宏昭 | 委員長 |
| 産業技術大学院大学 | 産業技術研究科長 創造技術専攻 教授 | 橋本 洋志 | 委員 |
| 産業技術大学院大学 | OPI 長 創造技術専攻 教授 | 越水 重臣 | 委員 |
| 産業技術大学院大学 | 特任教授 | 戸沢 義夫 | 委員 |
| 産業技術大学院大学 | 創造技術専攻 教授 | 三好 祐輔 | 委員 |
| 産業技術大学院大学 | 管理部長 | 裏田 勝巳 | 委員 |

1.4 産学公の連携

当事業での産学公連携(支援内容等)を以下に示す。

- 授業への実務家講師派遣
- 実証授業への参加を通じた専門的知見の提供
- 地域における現状の課題、成功事例・失敗事例・ノウハウの提供、調査
- 授業、イベントへの施設提供
- シニア受講生の募集

《産学連携の実績》

本学では、以下に示す運営諮問会議、OPI 等の活動により、産学連携を積極的に行ってきた。

- 〈運営諮問会議〉

本学では、産業界のニーズを把握し、教育内容に反映したり、また産業界と連携して教育研究を効果的に実践したりするために、本学が人材育成を行う産業分野の専門家、企業の経営者等の学外委員から構成される運営諮問会議を本学開学の 2006 年から設置している。運営諮問会議からは、産業界からみた本学の教育研究体制、運営体制、本学教育カリキュラムの妥当性、修了生のキャリアパス、教員の研修、PBL プロジェクトの共同実施等の本学教育運営体制に関する広範な課題等に関する答申が提出される。提出された答申は、本学の中期計画、年度計画に反映されている。

- 〈OPI(オープンインスティテュート)〉

本学 OPI は、本学の教育研究成果を広く社会に還元するとともに、地域・産業界のニーズにタイムリーに応じたカリキュラムを提供する場として、また、地域・産業界との交流の場として設置された組織である。また、地域の企業が自社の研究所を OPI に開設し、社員・学生・大学教員等から構成されるプロジェクトを結成して研究開発を行う活動も行っている。

これらの取り組みから、本学では産学連携が行われる環境が整っている。これらの体制・実績から、当事業で設置する協議の場としての運営委員会には、社会人学び直しと、事業創出に関する経験を重視し、委員を決定している。また、実証授業への参加、実務家教員の派遣、受講生募集では、東京都との連携に加え、運営諮問会議等の本学と各種の産学連携を行っている企業にも協力を依頼している処である。

1.5 令和元年度事業の成果

令和元年度は、PBL 型科目等の教材・地域の調査・開発と、開発した教育プログラム(カリキュラム、教材)にしたがって、実際に教育プログラム(大学院修士課程レベル)の運用を行う。PBL 及び事例研究の教育効果を高めるため、産業界から講師(専門家)を招聘して、集中型の PBL キャンプを開催する。また事業成果(進捗)報告等は、PBL 成果発表会開催、報告書で行う。当事業の成果を以下に示す。

- 「シニア起業家養成」教育プログラムの運用
- PBL キャンプ(2日間)

- 運営委員会開催 11 回
- 事業成果報告書作成と配布(連携公共機関、関係教育機関、企業等)

2 活動報告（令和元年度）

2.1 運営委員会

2.1.1 第1回 運営委員会

- 日時：2019/05/10(金) 10:30-11:30
- 場所:産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 講演会の次第について
 - 募集要項について
 - シラバスについて
 - 年間予定について
 - 基礎科目開講カレンダーについて
 - オリエンテーションの概要について

2.1.2 第2回 運営委員会

- 日時：2019/06/13(木) 14:00-15:15
- 場所:産業技術大学院大学 259 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 亀井特任教授
 - 裏田管理部長
- 次第

- 50歳以下の出願者への対応について
- 講演会の運営について
- 選考試験の運営等について
- 平成30年度シニアスタートアッププログラム報告書について
- 履修証明プログラムの運用について
- 事前審査申請者について
- 説明会の開催について
- 職業実践力育成プログラム(BP)の認定について

2.1.3 第3回 運営委員会

- 日時: 2019/07/15(月・祝) 15:30-16:00
- 場所:産業技術大学院大学 351-b 室
- 出席者
 - 板倉教授
 - 越水 OPI 長(後日審議)
 - 亀井特任教授
 - 三好教授(橋本研究科長代理)
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 事前審査及び合否判定の所管について
 - 本年度の選考試験合否及び受講科目について
 - 本年度の受講者募集の延長について

2.1.4 第4回 運営委員会

- 日時: 2019/08/02(金) 21:50-22:00
- 場所:産業技術大学院大学 265 室
- 出席者
 - 板倉教授
 - 越水 OPI 長
 - 三好教授(橋本研究科長代理)
 - 亀井特任教授
 - 裏田部長

- 次第
 - 本年度の選考試験合否及び受講科目について(追加募集分)

2.1.5 第5回 運営委員会

- 日時: 2019/10/04(金) 14:00-14:30
- 場所:産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 三好教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 基礎科目(選択科目)の合否判定について
 - 事例研究型科目の受講選考について
 - 授業評価アンケート結果(基礎科目のうち選択科目)について
 - 今後の予定について

2.1.6 第6回 運営委員会

- 日時: 2019/11/12(火) 14:00-14:30
- 場所:産業技術大学院大学 259 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 橋本研究科長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 三好教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 事例研究型「事業デザイン要論」の合否判定について
 - PBL 型科目「シニアスタートアップ特論」の受講選考について
 - 授業評価アンケート結果(事例研究型科目)について

- 今後の予定について

2.1.7 第7回 運営委員会

- 日時: 2019/12/17(火) 11:00-12:00
- 場所:産業技術大学院大学 259 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 橋本研究科長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 令和元年度 PBL 成果発表会及び修了式の開催について
 - 令和2年度 AIIT シニアスタートアッププログラム実施方法について
 - 檜原村 PBL キャンプの実施報告について
 - 今後の予定について

2.1.8 第8回 運営委員会

- 日時: 2020/01/21(火) 11:00-12:00
- 場所:産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - AIIT シニアスタートアッププログラム履修証明書について
 - 令和2年度「職業実践力育成プログラム」(BP)について

- 次年度の予算について
- 今後の予定について
- PBL 成果発表会及び修了式の周知について

2.1.9 第9回 運営委員会

- 日時: 2020/02/20(木) 13:00-14:00
- 場所:産業技術大学院大学 258 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 橋本研究科長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 基礎・演習型科目「東京経済事情」の合否判定について
 - 修了判定の手続きについて
 - 修了アンケートの実施について
 - 令和2年度講演会について
 - 令和2年度の予定について
 - 本プログラムのパンフレットにおける構成内容について
 - 今後の予定について

2.1.10 第10回 運営委員会

- 日時: 2020/02/27(木)~28(金)
- 場所: メール審議
- 次第
 - PBL 型科目合否判定について
 - 令和元年度修了判定について

2.1.11 第11回 運営委員会

- 日時: 2020/03/17(火) 11:00-12:00
- 場所:産業技術大学院大学 259 室
- 出席者
 - 川田学長
 - 越水 OPI 長
 - 板倉教授
 - 戸沢特任教授
 - 三好教授
 - 裏田管理部長
- 次第
 - 令和元年度本プログラム PBL 成果発表会の代替について
 - 令和2年度本プログラム開講科目について
 - 令和2年度本プログラムの予定について

2.2 講演会

2.2.1 講演会次第

- 日時:2019/06/22(土) 13:00-15:45
- 場所:Startup Hub Tokyo
- スケジュール

13:00-13:15 開会挨拶 川田 誠一 氏 (産業技術大学院大学 学長)
(第1部)

13:15-14:15 基調講演 「投資家はスタートアップの何を見ているのか」
岩田 真一 氏 (ATOMICO 日本代表パートナー・本学客員教授)
(元スカイプジャパン株式会社 代表取締役)

14:30-15:30 パネルディスカッション

「AIITシニアスタートアッププログラムの学びについて」

(登壇者) 岩田 真一 氏

平成30年度本プログラム修了生4名

(モデレーター) 亀井 省吾 産業技術大学院大学 特任教授

(第2部)

15:30-15:45 令和元年度AIITシニアスタートアッププログラムの説明

板倉 宏昭 産業技術大学院大学 附属図書館館長 教授

- 会場の模様



2.2.2 基調講演

- 講師: 岩田 真一 氏 ATOMICO日本代表パートナー・本学客員教授

(元スカイブジャパン株式会社 代表取締役)

- タイトル:「投資家はスタートアップの何を見ているのか」

2.2.3 パネルディスカッション

- 登壇者:岩田 真一 氏、平成 30 年度本プログラム修了生4名
- モデレーター:亀井 省吾 産業技術大学院大学 特任教授
- タイトル:「AIITシニアスタートアッププログラムでの学びについて

2.3 説明会

2.3.1 説明会次第

- 日時: 2019/05/25(土) 15:30-16:30, 06/05(水),06/13(木),06/25(火),07/29(月)
19:00-20:00
- 場所:産業技術大学院大学 351b 演習室
- 内容
開会挨拶 川田 誠一 氏(産業技術大学院大学 学長)(2019/05/25(土)のみ)
AIIT シニアスタートアッププログラム概要説明
板倉 宏昭 産業技術大学院大学 附属図書館館長 教授
AIITシニアスタートアッププログラム出願手続説明 事務局

2.4 PBL キャンプ

- 日時:2019/11/23(土)~11/24(日)、別途 2019/10/26(土)19:00-21:30 産業技術大学院大学にてオリエンテーション実施
- 場所:檜原村
- 講師:釧持 勝 氏(イーリゾート 代表)
- 参加者:板倉 宏昭 氏(産業技術大学院大学 教授)、亀井 省吾 氏(産業技術大学院大学 特任教授)ほか大学関係者9名、受講生 21 名
- 実施の様様(2019/11/23-11/24)

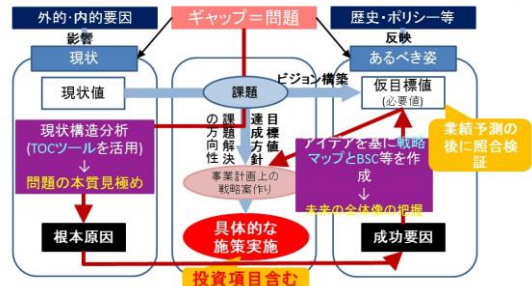


- 教材資料:以下資料抜粋

1-1, PBLキャンプ実施の目的と内容 (2)

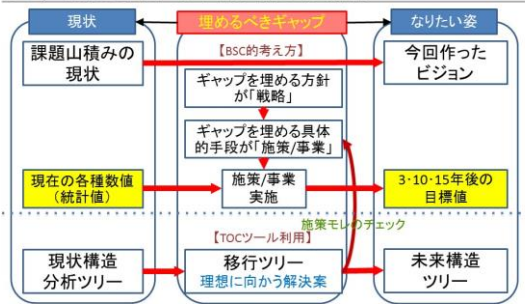
| 時間 | プログラム | 詳細 |
|-------------|-----------------|---|
| 2019年11月23日 | | |
| 08:15 | 武蔵五日市駅集合 | 集合後、バスで視察地に移動 |
| 09:30~15時前 | フィールドワーク | 貸切バス移動による現地視察(各グループにチェキ配布) 途中、昼食 気になったポイントやチェックなどを記録 ①複製記録の共有(写真や複製品に記録シートを付ける) ②複製記録の共有(写真や複製品に記録シートを付ける) ③複製記録の共有(写真や複製品に記録シートを付ける) |
| 15:00~夕方 | アイデア創出 ~現状把握 | ④複製記録の共有(写真や複製品に記録シートを付ける) ⑤複製記録の共有(写真や複製品に記録シートを付ける) |
| 夕方 | 宿舎(三頭山荘) 宿 | 宿でチェックイン・入浴など |
| 宿 | 食事~懇談 | ⑥夕食後、懇談および思いついたアイデアの発表会(ブラッシュアップの第1段階) |
| 2019年11月24日 | | |
| 8:30宿出発 | インプット(随時) | 作業ポイント確認と各種ツールの活用方法説明など |
| ふれあいセンター | ビジョンの構築 | 現状構築ツール(時間があれば未来ツール作成)を通して地域の(仮)ビジョン構築 |
| 12:00~13:00 | 戦略構築準備① | 現状SWOT分析~各グループの事業案に沿ったクロス分析、地域の物語作り |
| 13:00~15:30 | 戦略構築準備② | メルカスツーパー 仮ビジョンと現状の差を埋めるための戦略マップ(仮作成)の分析 地域のストーリーとビジョン・戦略案の照合での戦略確定 |
| 15:30~17:00 | 戦略構築準備③ | 戦略マップへの目標数値記入、目標値に合わせたオペレーティングやあふり出し 実施の標準 戦略マップを基にしたスコアカード(具体的な施策の作成と数値記入) |
| 17:30 | 発表 | 各グループ戦略構築について15分発表・5分質疑の答 |
| | 武蔵五日市駅解散 | ふれあいセンターからバス移動で武蔵五日市駅 |

3-1, 確認: 事業案作成に関するツールの位置付け



1. ギャップを正確に把握し、現在の根本原因から成功への手順を明確化する
2. それぞれの検討段階に応じたツールを、効率的に使用する
3. 現地でしか確認できない「歴史・ポリシー・慣習・禁忌」などをキャンプ中に把握する事

5-1, 現状とビジョンの「ギャップ」から戦略作りへ



- 今回使用する戦略構築の基本ツールは「BSCの戦略マップ」だが、その戦略内容の照査にはTOCの現状構築ツール、未来構築ツール、そして移項ツール作りが有効
- さらに、事業のドメインの確認はこの合宿で、事業ポートフォリオ作りは後日実施のこと

5-4, 戦略マップの基本的構成要素

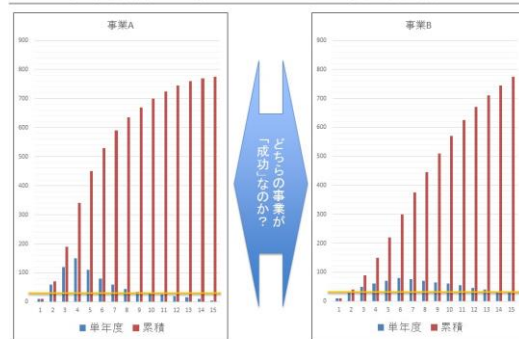


7-1, アイデアに行き詰まったら「デザイン思考」

- TOCやBSCを使っている問題解決は「システム思考」的
- 1. システム思考では、ひとつの現象を点として捉えるのではなく、全体における構成要素として捉える
- 2. 仮説(望ましい姿)を明確にし、机上でもフィールドでも検証する
- 3. 型が決まっているので、ローコストで素早く改善可能
- でもTOCやBSCだけでは「劇的改善(イノベーション)」が生み出されない場合はどうするか?
 - デザイン思考を使ってみる



8-2, 事業継続性の確認: スループットと損益分岐点



3 成果報告（令和元年度）

3.1 教育プログラム（カリキュラム及び教材開発）

「シニア起業家」養成の教育プログラムは、戦略・IT 技術・マネジメント等の融合型プログラムであり、当教育プログラムのための科目（講義 5 科目、事例研究・PBL 2 科目）から構成される。教育プログラムの体系を以下に示す。

3.1.1 修得すべき能力

本学運営諮問会議の答申によれば、今後期待される人材像として、自ら新しい事業を創出できるイノベーション高度人材が挙げられている（運営諮問会議 平成 25 年度 答申）。スタートアップが創出するイノベーションは、IT 技術等を駆使し、新しい事業を開発し、マネジメントすることができてはじめて本当の変革を実現できる。

したがって、修得すべき知識・スキルは以下に示すように戦略、マネジメント、IT 技術を中核に多岐にわたる。

- 戦略・マーケティング（経営、スタートアップ、イノベーション等）
- マネジメント（タスク・プロジェクト、人材・組織、ファイナンス）
- 先端基盤技術としての IT 技術（クラウド、アプリ、AI、ブロックチェーン等）
- 地域における対象分野の業務知識・現状・課題（観光・物販・医療等の各種業種）
- メソッド・ツール（リーン、課題管理、コラボレーション等）

3.1.2 教育内容（授業科目等）、教育方法

当教育プログラムのカリキュラムは、以下の 3 段階から構成される。授業科目一覧は表3を参照されたい。

- 基礎科目の講義・演習型科目 3 科目以上（必修である東京経済事情を除き、2 科目以上を選択必修）
シニア起業家に必要とされる知識・スキルの修得・定着
- 事例研究型科目 1 科目（必修）
事例研究及び事業設計による事業開発手法の修得

- PBL(Project Based Learning)型科目(必修) 1科目
地域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

当教育プログラムのカリキュラムでは、基礎科目では、最初にシニア起業家としての知識・スキルと、地域の現状・課題等を講義・演習型科目で学ぶ。次に事例研究型科目で各種の事例から事業開発手法を学ぶ。最終段階では、業務遂行能力の修得のため、これまで学んだ知識・スキル・事業開発手法を活用・駆使して、PBL型科目で、対象地域の現状から課題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。当教育プログラムの履修の流れを下図で示す。

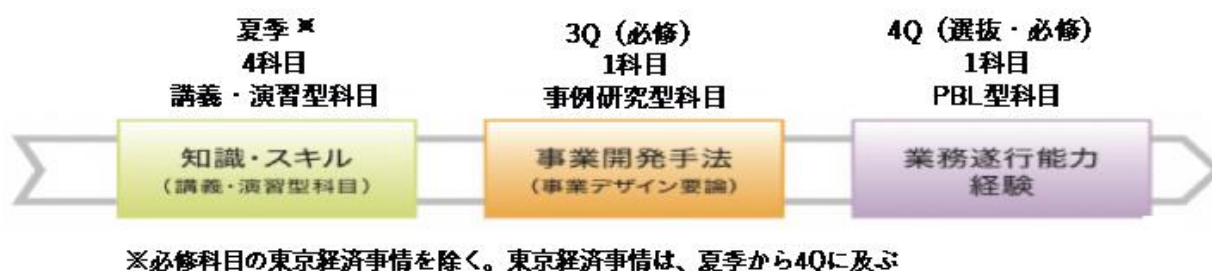


図 1: 履修の流れ

《基礎科目：講義・演習型科目》

基礎科目では、シニア起業家に必要とされる知識・スキルの修得・定着のため、講義・演習型5科目を設定する。

- 〈オーダーメイド型カリキュラム〉
シニア受講生は、既に修得している知識・スキル、及び現在までのキャリアが様々であり、また高度人材としての目標も(アントレプレナー、イントレプレナー、事業承継等)様々であるため、当教育プログラムでは、すべての科目を固定の必修科目とするのでは無く、各学生のキャリアプランに対して必要とされる知識・スキルを修得できるように、基礎科目群から独自の履修計画を設計する仕組みを取る(オーダーメイド型カリキュラム)。
- 〈大学院レベルの知識体系・知識単位〉
当教育プログラムの授業科目は、履修によって修得可能な到達レベルが明確に設定されている。学生は、オーダーメイドの履修計画を作成する段階、実際の授業科目の履修の段階等、各自が修得する必要がある知識がどの程度修得できているかという達成度を常時確認することができる。
- 〈学修効果を高める教育手法〉

単に知識の修得だけではなく、実際に業務で活用できる事例に基づいた講義・演習・グループワーク・録画授業による反復学修を、科目別に最も適した構成で取り込んだ教育手法を採用する。

《事例研究型科目》

事業デザイン要論では、MBA 等で活用されているケーススタディ、ケースメソッド等の手法を参考に、本学にて開発した事例研究型教育手法によって事業開発手法を学ぶ。

- 〈PBL 型教育を意識した独自教材〉

本授業は、本学にて開発した独自教材の事例に基づいて、(フェーズ1) 学生による事前準備、(フェーズ2) 小グループでのグループディスカッション、(フェーズ3) クラスディスカッションという流れで授業を展開し、各種の事例に対する要因分析から、情報分析、問題解決のスキルを駆使して、戦略立案、実現可能性の検証、意思決定の訓練を行い、PBL 型教育に対する準備とする。

《PBL 型科目》

実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠である。本科目では、地域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL (Project Based Learning) 型授業を行う。

- 〈業務遂行能力(コンピテンシー)〉

本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本プログラムでは、シニア起業家に必要とされる業務遂行能力として、「7つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として「3つのメタコンピテンシー」を設定している。

- 〈大学院レベルの PBL〉

本学では、2006 年の開学時から PBL 教育を行い、PBL の教育手法を積極的に開発してきており、PBL 活動を通常の大学院の修士論文(研究活動)相当に位置付けている。学生は、原則3年次の時間のすべてを PBL に使う。PBL 教育は、医学・看護等の分野で先行して活用されているが、他の大学等では、既存の教材にしたがったシミュレーションだったり、数単位相当

の時間であったりすることが多いが、本学の PBL は、大学院レベルの質・量で、実務に近い相当規模のプロジェクトを行うことが特徴である。企業・自治体等の外部組織と連携したり、成果を論文として発表したりする PBL も多数ある。

- 〈PBL のメンバー構成〉

通常の業務では、単独で問題解決にあたることは稀で、通常は複数メンバーからプロジェクトが構成される。本学 PBL でも、これを反映し、5 名程度のメンバーからプロジェクトを構成し、問題解決のために協働作業を行う。シニア受講生が多数を占める本プログラムでは、構成メンバーの職業・職位・経験等は様々で、経験を積んだ技術者やデザイナー、教員、一流企業の部長級というメンバー構成等、タスクタイプ多様性あるチーム構成が実現する。各 PBL チームには 5 名の教員が指導にあたる。

- 〈成果・過程・評価〉

通常の業務プロジェクトは、成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管理も要求される。本学 PBL でも、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。PBL 型科目の成績は、3 名以上の教員で評価点を付け、成績評価を決定する。評価点は、あらかじめシラバスに明記された基準への達成度による評価に基づき、PBL の「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」から評価を行う。

表 2 に、当プログラムの科目の概要、表 3 に、当プログラムの授業科目一覧を示す。

表 2 科目の概要

| 授業科目名 | 英語 | 担当教員 | 内容 |
|--------|--------------------------|-----------------|---|
| 東京経済事情 | Tokyo Economic Situation | 板倉 宏昭、 ゲスト講師 | 活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。 |
| 経営戦略要論 | Strategic Management | 原田 保 | 本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。また、特に重視される戦略は、コンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。 |

| | | | |
|--------------|------------------------|----------------|--|
| マーケティング要論 | Marketing | 江戸 克栄 | 本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識だけではなく、実践的な「分析力」と「創造力」を養う必要がある。本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけではなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。 |
| ファイナンス要論 | Venture Finance | 三好 祐輔 | 本講義の目標は、経営者の立場で必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、企業財務に関する実践的知識・スキルの取得と問題発見と解決・提案力を培えるように支援する。また、本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。 |
| IT イノベーション要論 | IT Solutions | 戸沢 義夫 | 今後の情報社会情報システムの役割は、データ取り込みと情報共有手段としての役割がさらに重要となる。専門家でなくても容易にクラウド活用できるサイボウズの Kintone を用いて、システム構築を試みる。身近なテーマを選んで Kintone による情報システム構築を行う以外に、最近話題になっているテーマ(ブロックチェーンや人工知能など)について解説する。 |
| 事業デザイン要論 | Business Design | 戸沢 義夫 亀井 省吾 | 既存の事業開発・事業改革の事例(ケース)を研究する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にする。与えられた事例に対して、チームで検討し、結果をプレゼンテーションする。 |
| シニアスタートアップ特論 | Project Based Learning | 板倉 宏昭 亀井 省吾 | 当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開 |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | 発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するためにPBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。 |
|--|--|--|--|

表 3 授業科目一覧

| 種類 | 科目名 | 授業時間数 |
|------|--------------|-------|
| 基礎 | 東京経済事情 | 12 |
| | マーケティング要論 | 12 |
| | ファイナンス要論 | 12 |
| | IT イノベーション要論 | 12 |
| | 経営戦略要論 | 12 |
| 事例研究 | 事業デザイン要論 | 12 |
| PBL | シニアスタートアップ特論 | 12 |

基礎科目群として、必修科目である東京経済事情を除く4科目は、2科目以上の選択必修科目であり、事例研究型科目である事業デザイン要論の履修前に修了する必要がある。また、PBL 型科目であるシニアスタートアップ特論の履修前には、事業デザイン要論を修了する必要がある。

3.1.3 授業期間

本プログラムは8月に始まり、翌年2月に終わる。授業期間は、概ね以下の通りである。授業時間は、社会人の学び直しを考慮し、原則として、平日の夜間及び土日昼間に授業を開講している。

- 東京経済事情: 8月から2月中旬までの8回
- 基礎科目(東京経済事情除く): 8月から9月末までの8回
- 事業デザイン要論: 10月から11月初旬までの8回
- シニアスタートアップ特論: 12月から2月初旬までの8回*

* 2月に補講1回実施

また、欠席者へ授業録画等の仕組みを活用した。

3.1.4 履修資格

日本の4年制大学を卒業した者、またはこれに準ずる者。

3.1.5 成績評価方法・基準

成績評価は 100 点満点での評価点を参考に、以下表にしたがい合否判定を行う。

表 4 成績評価

| 判定 | 評価点 | 成績 |
|-----|--------------|----|
| 合格 | 100 点から 90 点 | 5 |
| 合格 | 89 点から 80 点 | 4 |
| 合格 | 79 点から 70 点 | 3 |
| 合格 | 69 点から 60 点 | 2 |
| 不合格 | 59 点から 1 点 | 1 |
| 不合格 | 0 点 | 0 |

厳格で一貫した成績評価を行い、教育の質を保証するため、以下の成績評価及び基準を設定する。

- 科目ごとに成績評価 5 あるいは 4 にあたる「上位到達目標」、成績評価 3 あるいは 2 にあたる「最低到達目標」という到達目標を設定し、これらに準拠した絶対評価を行う。各科目の到達目標はシラバスで公開する。
- 成績評価は原則として、授業の目的及び到達目標に則した複数の方法で行う。成績評価の方法及び比率（「課題レポート 30%、発表 30%、試験 40%」等）はシラバスで公開する。
- 成績評価の方法に出席点に相当するものは無い。

3.1.6 修了要件

東京経済事情含む基礎科目 3 科目以上を修了し、事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論を修了すること(内訳は下表参照)。

表 5 修了要件

| 科目群 | 備考 | 種別 | | |
|---------------------|---------|----|----------|----|
| | | 必修 | 選択 必修 | 選択 |
| 基礎科目(東京経済事情) | | ○ | — | — |
| 基礎科目群(東京経済事情 以外) | 4科目から選択 | — | 2科目 | ○ |
| 事業デザイン要論 | 事例研究型科目 | ○ | — | — |
| シニアスタートアップ特論 | PBL 型科目 | ○ | — | — |

修了要件の最小総授業時間数(基礎科目 3 科目、事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論) 60 時間(12 時間× 5 科目)である。

3.1.7 担当教員

表 6 に、当プログラムの授業担当教員一覧を示す。このほかに、「東京経済事情」、「シニアスタートアップ特論」等では産業界、公共機関からゲスト講師等を招聘する。

表 6 担当教員

| 教員名 | 専任 | 実務家 | 当事業で担当する講義 | 学位・業績・経歴 |
|-------|----|-----|-----------------------|--|
| 板倉 宏昭 | ○ | ○ | 東京経済事情、シニアスタートアップ特論 | 本学情報アーキテクチャ専攻 教授、博士(学術)、元(株)日本 IBM 等 |
| 亀井 省吾 | | ○ | 事業デザイン要論、シニアスタートアップ特論 | 本学特任教授、博士(学術)、元 東京海上日動火災保険(株)等 (Venture Capital 等) |
| 戸沢 義夫 | | ○ | IT イノベーション要論、事業デザイン要論 | 本学名誉教授、理学修士、元 (株)日本 IBM 等(Distinguished Engineer・コンサルタント等) |
| 原田 保 | | ○ | 経営戦略要論 | 一般社団法人地域デザイン学会 理事長、元(株)西武百貨店取締役(企画室長等)等 |
| 江戸 克栄 | | | マーケティング要論 | 県立広島大学大学院 経営管理研究科 専攻長 教授、修士(商 |

| 教員名 | 専任 | 実務家 | 当事業で担当する講義 | 学位・業績・経歴 |
|-------|----|-----|------------|---------------------------------|
| | | | | 学) |
| 三好 祐輔 | ○ | | ファイナンス要論 | 香川大学大学院地域マネジメン ト研究科 教授、経済学博士 |

3.2 当教育プログラム運用状況

3.2.1 オリエンテーション

- 日時:2019/08/11(日・祝) 13:00-16:00
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室
- 受講生:25 名

令和元年度 AIITシニアスタートアッププログラム

オリエンテーション



公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学

経営戦略要論

▶ 講義概要

実践的視点から講義を展開する。実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するインタラクティブ講義。特に重視される戦略はコンテキストからの戦略デザイン。コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得を目指す。

▶ 開講日程

8/16,23,9/6,20 (金) の6,7限 (合計8コマ、12時間)。

▶ 講師:原田保 (地域デザイン学会理事長)

早稲田大学政治経済学部卒業。西武百貨店取締役企画室長、香川大学経済学部教授、多摩大学ルネッサンスセンター教授等を経て現職。専門は戦略研究、文化評論。著書は、『戦略的パーソナル・マーケティング』『ブランドデザイン戦略』『ソシオビジネス革命』『無形資産価値経営』等多数。



3

東京経済事情 (必修)

▶ 講義概要

活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、広く東京の経済事情を学ぶ。各界マネジメントのパースペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、どのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。

▶ 開講日程

8月~2月 (合計8コマ、12時間)。
予定: 8/21,28,9/25~ 水曜日・19:00-20:30
オムニバス形式

▶ 初回講師:川田誠一

本学学長
公立大学法人・首都大学東京副理事長
8月21日(水曜日) 19時00分~20時30分
講義内容:技術倫理



事業デザイン要論

▶ 講義概要

実際の事業開発・事業改革の事例(ケース)をチーム検討する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを疑似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にし、結果をプレゼンテーションする。

▶ 開講日程 (品川シーサイドキャンパス)

10/19,27,11/4,9 (合計8コマ、12時間)。

▶ 講師:戸沢義夫 (本学名誉教授)

日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所、コンサルティング部門等を経て、2006年産業技術大学院大学教授、情報アーキテクチャ専攻長など歴任。



▶ 講師:亀井省吾 (本学産業技術研究科特任教授)

多摩大学大学院経営情報学研究科客員教授。博士(学術)。東京海上火災保険(株)、投資銀行等にてベンチャーキャピタル投資職掌を経て現職。



シニアスタートアップ特論

PBL(Project Based Learning)

➤ 講義概要

- ✓ チームを作り、ひとつのテーマについて3カ月かけてプロジェクト成果を出す。
- ✓ どんな成果を出すか、どのように進めるかは、チームで議論し、自分たちで考えて自主的に決める。
- ✓ 対象地域で1泊2日の合宿(PBLキャンプ)を行い、「地域ビジネスを考える」という課題に取り組む。
- ✓ 発表会で発表し評価をもらう。

➤ 開講日程(予定)

12/8,22,1/19,2/2(合計8コマ、12時間)。



19

PBL CAMP

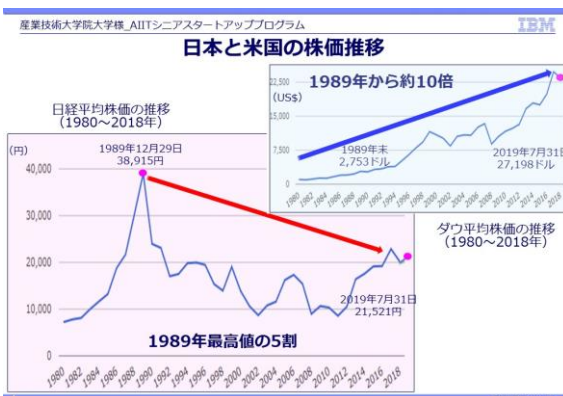
10/26(土) 19:00-21:30 事前レクチャ@AIIT
11/23(土)-11/24(日) 実施@檜原村
Field work (Ideathon)

➤ 講師: 鈿持勝 (イー・リゾート代表)
地域経営及び観光事業のコンサルタント。北海道ニセコひらぶ地域の改革(2002年から12年で外国人客数を約50倍超に増加の礎を造る)をはじめとして、数々の地域経済の再建を担当。また日本でのDMO活用の言い出しっぺのひとり、この6年間で5カ所のDMO設立に関わる。地域でのアイデアソン開催経験7年の実績。

3.2.2 東京経済事情

- 日時: 2019/08/21(水), 28(水), 9/25(水), 10/23(水), 11/6(水), 12/11(水), 2020/01/15(水), 02/10(月) 19:00-20:30
- 場所: 産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生: 25名

活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。



起業の現状

○ 各国の開業率比較 (2012年・2014年版中小企業白書より)

日本: 4.6%
フランス: 15.3%
イギリス: 11.4%

⇒ **日本は、先進国に比し、かなり低い状況**

※ 開業率の算出データは各国により異なっており、日本は雇用保険適用事業所の成立を、フランスは企業事業所目録への登録企業数を、イギリスは付加価値税及び源泉所得税登録企業数を元に算出



産業活性化のために東京都は、2024年度までに開業率の到達目標を10%に設定

村の資源活用とブランド化



- 第3セクターによる
 ミニスーパー運営
- 木材活用 企業誘致
 (現在3社指定)
- エコツーリズム(新たな観光産業)
- 特区制度によるじゃがいも焼酎の製造
- トイビレッジ構想に基づくおもちゃ等工房、おもちゃ美術館の建設
- 木材天然乾燥施設を活用した檜原産材の活用
- 下水道整備による鮎の全国準グランプリ獲得(2回)²⁴



今後の村の展望と起業へのアドバイス

- 空家を活用したサテライトオフィス、企業誘致
- 光ファイバー網を活用したシェアハウス、シェアオフィスへの取組
- AI等を活用した交通不便地域での交通手段の確保、買物支援策
- トイビレッジ構想に基づく、木育、木材産業による地域の活性化
- 遊休農地の活用
- 野生鳥獣(ジビエ)の活用
- 高齢者の技能等の活用、継承



本日の講義内容

1. 東京牧場株式会社の事業紹介
2. 起業のきっかけと決断
3. 起業の準備と期間
4. 起業後におきたこと
5. 当社の特長と強み
6. 今後の事業展開
7. スタートアップを検討している方へ
8. 終わりに・・・

東京牧場



令和元(2019)年度
AIITシニアスタートアッププログラム

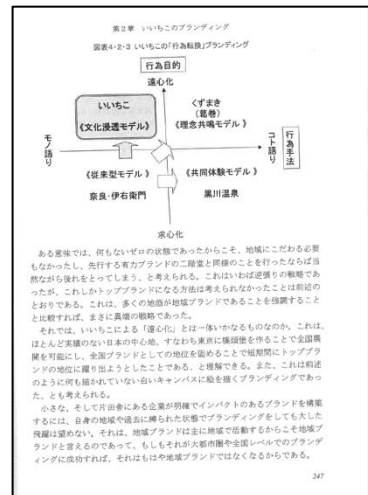
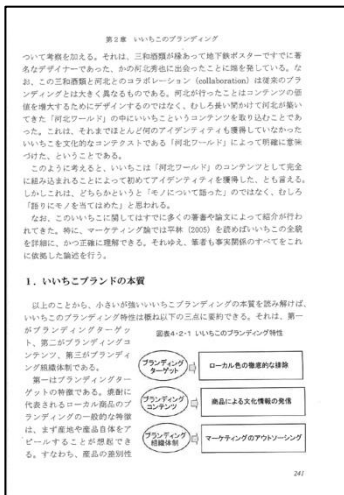
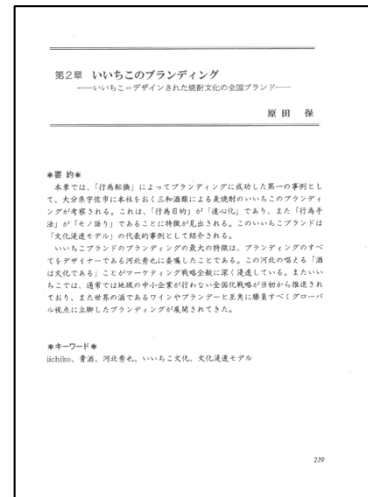
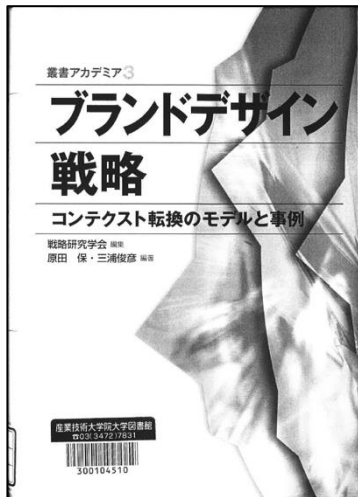
必修科目「東京経済事情」(最終回)

日時 2020年2月10日(月)
会場 SHIP 品川産業支援交流施設

3.2.3 経営戦略要論

- 日時:2019/08/16(金),23(金),09/6(金),09/20(金) 18:30-21:40
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生:21名

本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。特に重視される戦略は、コンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。



3.2.4 マーケティング要論

- 日時:2019/09/3(火),10(火),12(木),24(火) 18:30-21:40
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生:15名

本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけではなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。

3.マーケティングの変遷

1. マーケティング・コンセプトの変遷

1. 生産志向
2. 販売志向
3. 消費者志向
4. 社会志向
5. 顧客志向
6. 関係志向



→どのように変遷していくのか？

1. 市場環境分析の方法

SWOT分析



2. マーケティングリサーチの基本

—調査・リサーチ方法の種類—

| | | |
|-----------|-------------|-----------------|
| 調査・リサーチ方法 | 二次データの収集・分析 | 現状形成、下調べなどに使用する |
| | 定性調査 | 少数のサンプル調査 |
| | 観察調査 | 現象を把握する |
| | 実験やテスト | 条件下の効果、因果関係等 |
| | 定量調査 | 数值的・統計的分析等 |

◆調査目的に合わせた調査方法を選択することが重要

1. Marketing Mix: 商品とサービス

—経験価値(Schmittによる5つの経験価値)—



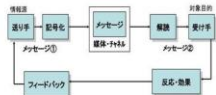
5. Marketing Mix: プロモーション政策

—コミュニケーションモデル—

1. 基本的なコミュニケーションモデル【p.225図参照】

*ノイズの存在

コミュニケーションの現代的モデル



プロモーションよりもコミュニケーションと言われることが多くなってきた

3. 新しいマーケティングの可能性

■これからのマーケティングに影響を強く及ぼす環境

1. 情報化・グローバル化
2. 観光とインバウンド
3. 少子化・高齢化や人口減少
4. 労働や余暇のあり方
5. 経済格差（所得格差、地域格差）
6. 環境問題、循環型社会
7. ICT, AI等の科学技術



3.2.5 ファイナンス要論

- 日時: 2019/09/11(水), 18(水) 18:30-21:40, 21(土) 13:00-16:15, 27(金) 18:30-21:40
- 場所: 産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生: 16名

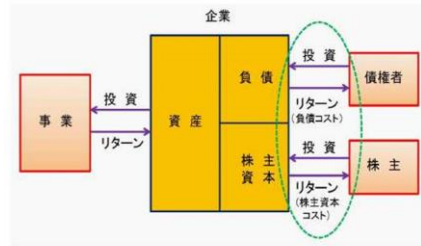
本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。

①電王のEVAの計算

| EVA (経済的付加価値) 計算シート | 正の値 | 0.228 | 0.246 | 当期純利益 |
|-------------------------|-----|---------|---------|---------|
| 経常収入金+当期収入金+社債 | → | 19,109 | 26,270 | 19,109 |
| 減価償却費+U/L | → | 2,852 | 2,184 | 2,852 |
| (支払利息+有利子負債) × (1-法人税率) | → | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 当期純利益+U/L | → | 474,979 | 482,897 | 474,979 |
| 資本は100%の純利益 (CAPMで推計) | → | 3.7% | 2.6% | 3.7% |
| 自己資本+有利子負債 | → | 494,088 | 489,217 | 494,088 |
| 負債コストと株主資本コストの加重平均 | → | 3.1% | 2.6% | 4.3% |
| 当期純利益+U/L | → | 52,147 | 59,428 | 52,147 |
| 当期純利益+U/L | → | 11.0% | 12.8% | 11.0% |
| 当期純利益+U/L | → | 10.6% | 12.1% | 10.6% |
| EVA | → | 39,758 | 47,239 | 39,758 |
| 自己資本(純資産)+資産合計 | → | 705,916 | 613,769 | 705,916 |
| 自己資本比率 | → | 63.7% | 59.1% | 63.7% |
| 当期収入金 | → | 8,914 | 13,791 | 8,914 |
| 当期収入金 | → | 1,381 | 8,405 | 1,381 |
| 当期収入金 | → | 9,104 | 4,674 | 9,104 |
| 当期収入金 | → | 21,615 | 38,657 | 21,615 |

①電王の場合、有利子負債から当期純利益を差し引いた、実質的な有利子負債はゼロに近いが、負債コストはゼロではない。

資金調達にかかるコスト



第一回配布レジメ

記号の意味

- …キーワード
- ◆…重要
- ◇…アドバイス

■ファイナンス・マネジメントとは..(PPTの図を参照)

□1-1 ファイナンスとは、財務的意図決定の方法を研究する学問である。

企業の財務活動の一側：

1. 資本市場から資金を調達し、事業に投資する。
2. 商品の製造・販売を通じて事業に投資した資金にリターンを生み出し、リターンを利息・配当という形で資本市場に還元する。
3. リターンの一部は内部留保という形で企業内で再投資する。

⇒ファイナンスは投資(investment)と財務管理(finance management)に大別される。

◆ファイナンスの基本となるのはお金の価値に対する考え方である。

- ◎現在価値…(後述)
- ◎将来価値…(後述)

□1-2 投資(investment)

Q 機関投資家(例：生命保険、信託銀行)・個人投資家は金融資産への投資をどのように行うべきか？

- A1. リスクに合ったリターンの獲得-資本資産市場モデル(CAPM)
- A2. 株式・債券の価値評価
- A3. デリバティブ、先物(futures)、オプション(option)...

□1-3 財務管理(finance management)

Q 企業は財務的意図決定をどのように行うか？

- A1. 投資のための資金をどこからどのように調達するか(資金調達)？
- A2. 調達した資金をどのような基準で何にいくら投資すべきか(投資決定)？
- A3. 事業活動の結果、得た利益をどのように処分するのか？特に、株主に対して、資金をどのような形態でいくら還元すべきか(配当政策)？

◆これらの意思決定の先には企業価値の最大化がある。

第一回配布レジメ

◎現在価値と将来価値について

Q お金の価値とは？

ファイナンスの基本となるのはお金の価値に対する考え方である。

□お金の価値を考える際、そのお金をいつ受け取るかが問題となる。お金の価値はそのお金を受け取る時点で依存する。

□お金の時間的価値を理解するためには、利息の計算方法を知る必要がある。

- ・単利…元本に対してのみ利息がつく。
- ・複利…元本+過去の利息両方に対して利息がつく。

◎将来価値について

問題1：年利5%の定期預金に100円預けるとする。ちょうど1年後、2年後のお金はいくらかに増えるか？

Ans. 100円 × (1 + 0.05) = 105円。

Ans. 105円 × (1 + 0.05) = 110.25円。

↓

100円 × (1 + 0.05) × (1 + 0.05) = 100円 × (1 + 0.05)² = 110.25円

一般型：元本 c_0 円を年利 r で1年間運用する場合、1年後の将来価値(future value)は

$$c_1 = c_0 \times (1+r)$$

で与えられる。

◎現在価値について

問題2：1年後に100円になるには、元手はいくらいるか？

元手を y とおくと

$$\text{Ans. } y \times (1.05) = 100 \rightarrow y = 100 / (1.05) = 95.24 \text{ 円}$$

問題3：2年後に100円になるには、元手はいくらいるか？

元手を y とおくと

$$\text{Ans. } y \times (1.05)^2 = 100 \rightarrow y = 100 / (1.05)^2 = 100 / (1.1025) = 90.70 \text{ 円}$$

一般型：1年後に得られる金額 c_1 円に関する現在価値(current value)は $c_0 = \frac{c_1}{(1+r)}$ で与えられる。

◆1年後の現金と2年後の現金は価値が違う。⇒今日の現金と明日の現金の価値は違う！

- 今日のテーマ：EVAとは…
- 基本確認
- ・資本コスト
- ・DCF法
- ・フリーキャッシュフロー(FCF)

□2-1 資本コスト

- Q、資本コスト(WACC)に難目する理由は？
- A、資金提供者(債権者・株主)に対するリターン(資本コスト)を考慮する必要がある。
- ⇒(資金調達にかかるコストの図)を参照

会社の構成員(経営者、従業員、債権者、株主)
特に株式会社は、株主のモノ
経営者は、株主(出資者)の求めているもの(株主は資本を提供しているが、別のモノに投資していたら得られたであろう収益よりも多くの利益を還元すること)を忠実に行う
⇒企業価値最大化

□2-2 企業価値

Q、企業価値をどのように定義し、どう評価するのか？

- A・企業価値(Enterprise Value, EV) = (株式時価総額) + 純有利子負債
- A・最も一般的な企業価値評価法がDCF(Discounted Cash Flow)法である。

<DCF評価法の説明>...(後述)

□2-3 EVA(Economic Value Added)

企業価値を向上させるためには有効な管理ツールの例がEVA。EVAとは、株主や債権者といった企業に対する資金提供者の立場から考え、企業が事業から獲得している儲けが資金提供者の期待している水準をどの程度上回っているかを表す業績評価指標。

<EVA(付加価値評価)の計算方法>...(後述)

- ◎EVA = (営業利益 / 投下資本) - WACC × 投下資本。EVAを改善するには、
- ・投下資本(=負債と自己資本の和)をいかに少なくするか？
- ・WACCを少なくするか？
- ・営業利益(売上高を大きくして、売上原価を少なくする)をあげるしかない。

◎<DCF評価法の説明>

1 なぜ企業価値を評価するのか？

自社のみならず他社の企業価値の評価(Valuation)水準を知ることが企業財務の重要な話題。

「不採算部門の売却(リストラ)
理論株価の算出」
「企業買収(M&A)...

企業価値評価法は以下の方法が最も標準的である。
DCF評価法：(Discounted Cash Flow Valuation)

- Q、なぜ割り引くのか？(換算すると、割引現在価値で考えないといけないのか?)
- A、資金提供者に対するリターン(資本コスト)を考慮する必要があるから。
- ⇒ DCF評価法はM&A(次回テーマ)における買収価格の算出にも用いられる。

DCF評価法で評価してみよう。DCF評価法は、前期の現在価値を用いる。この時の割引率は金利でなく、後で紹介する投下資本コスト(WACC)を用いる。

- Q、毎期100万円のキャッシュフローを生み出す時、WACCが5%であれば、その利(=企業価値)は？
- A、 $100/(1.05) + 100/(1.05)^2 + \dots$
 $\approx 100/(0.05) = 2000$

永遠にキャッシュフローが生み出されるのであれば、企業価値は、2000万円

「一般型：キャッシュフローをc、割引率をrとおくと、企業価値(EV)は

$$EV = \frac{c}{r}$$

「
「
「
「
「
「

3.2.6 ITイノベーション要論

- 日時:2019/08/17(土),31(土),09/7(土),14(土) 13:00-16:15
- 場所:産業技術大学院大学 351a 教室他
- 受講生:14名

現在の情報社会における情報システムの役割として、データ取り込みと情報共有側面がさらに重要になってくる。本授業では、専門家でなくても容易に業務で活用できるサイボウズ社のクラウドを活用したKintone を活用し、情報システムを構築する。また、最近話題になっているテーマ(ブロックチェーンや人工知能など)について解説する。

人工知能とは何か？

人工知能のやさしい説明(人工知能学会)
<https://www.ai-gakkai.or.jp/whatsai/Alwhats.html>

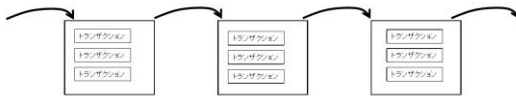
- 人間の知能そのものをもつ機械を作ろうとする立場
ニューラルネットワーク
- 人間が知能を使っていることを機械にさせようとする立場
 - ◆プログラミング
 - ◆「知識」を用いた推論(第2期ブーム)
エキスパートシステム
 - ◆機械学習
多量のデータを統計処理(データ・サイエンティスト)
 - ◆機械学習(第3期ブーム)
深層学習(ディープラーニング、画像認識)
強化学習(囲碁や将棋など)

エキスパート・システム(「知識」を用いた推論)

- 知識と推論を区別せずプログラミングする
かな漢字変換
- 知識と推論メカニズムを分離する
知識は
・・・ならば・・・である
の形式
- 人間の知識を網羅的に記述するのは極めて困難

ブロックチェーンとは何か？

- チェーンでつながったブロック
- ブロックはトランザクションを集めたもの



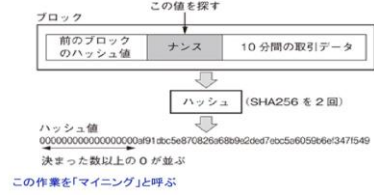
元々は

- ビットコイン(暗号通貨)を実現するための基盤技術

bitcoinのオリジナル論文

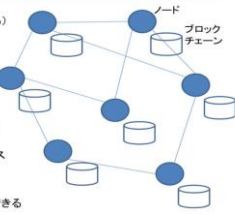
コンセンサスアルゴリズム PoW (Proof of Work) 早い者勝ちのルール

約10分かかって解ける問題: 試行錯誤以外で探す方法はない(と信じられている)



システムが安定している:P2Pネットワーク

- 誰でもネットワークメンバーになれる(すべてのトランザクション記録が見える)
- メンバー全体を管理する人はいない
- 送られてきた情報を正しいと確認し知っていないノードに送信する(正しくないものは棄却し送信しない)
- すべてのノードが同じブロックチェーン全体を持つ(ひとつのデータベースの一部を手分けして(分散)持つのではない)
- マスターノードやマスターデータベースはない(サーバーはない)
- 攻撃(DoSなど)に強い
- どれかのノードに故障が生じても復元できる



Ethereum のねらい

- スマートコントラクト
(ブロックチェーンに取り込まれたら、契約(プログラム)を自動実行)
- 原理的にどんなプログラムでも書ける
 - EVM (Ethereum Virtual Machine) による実行
 - Gas (燃料) の導入: プログラムを走らせるためのリソース(暴走防止)

- UTXOモデルではなくアカウントモデル
- スマートDB(ブロックチェーンとは別に管理されるデータベース)
 - プログラムの実行により書き換え可能

- コンセンサスアルゴリズム(意向表明)
- 将来 Proof of Work から Proof of Stake へ移行する

スマートDBはステートDB、ワールドステートと呼ばれることもある

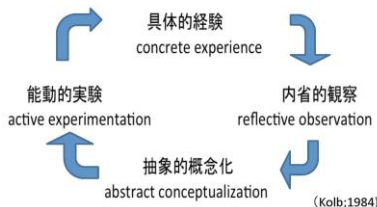
3.2.7 事業デザイン要論

- 日時: 2019/10/19 (土) 18:30-20:00, 27 (日) 13:00-18:00, 11/04 (月) 13:00-18:00, 09 (土) 18:30-20:00
- 場所: 産業技術大学院大学 351a, 286PBL 教室
- 受講生 24 名

既存の事業開発・事業改革事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境変化、ステークホルダー、ビジネスモデル、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らし、どのような課題があるかを明確にする。チームで検討し、プレゼンテーションする。

事例研究(ケース・メソッド)のねらい

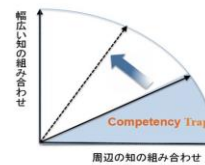
個人がその職業生活を通じて経験できることには限界。
疑似体験につき、多様なもの見方で経験学習サイクルを回すことにより、新しいパースペクティブ(視野)を獲得する。



事業デザイン要論2019

3

Knowledge Exploration



出所: 入山崇栄 日経2014/7/21経済教室を加工

2019事業デザイン要論

7

Element Process of Case Method

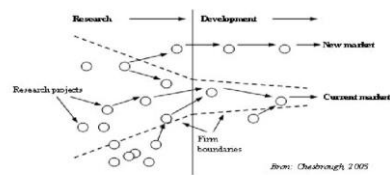


出典: 梶井省吾, 小山聡平, 戸沢龍夫, 徳森博『PBL: フォーディング・インターナショナル・グループ形成と学習者の多様性』, 専門職大学院での社会人学び(実践・事業からの知見), 情報処理学会 情報教育センター(2016), ISBN978-4-8003-0000-0

2018事業デザイン要論

12

Open Innovation Platform

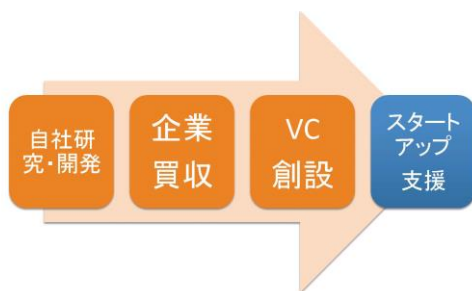


From: Chesbrough, 2003

Source: Chesbrough, H. (2003), "Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology", Harvard Business School Press.

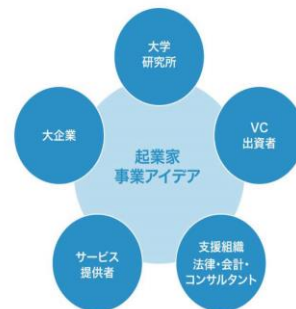
研究開発スピード加速によるR&D戦略の変化

- 研究開発スピード加速により、大手企業のR&D戦略が変化



事業デザイン要論2019

シリコンバレーのビジネスエコシステム



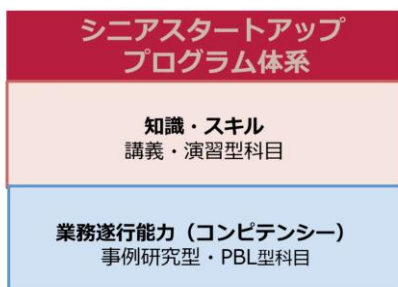
出所: 相山豊生(2016)「ビジネスエコシステムとは何か——その定義と背景を学ぶ」
<https://businessecosystem.unisys.co.jp/definition-of-ecosystem-01/>

事業デザイン要論2019

3.2.8 シニアスタートアップ特論

- 日時: 2019/12/08(日), 22(日), 2020/01/26(日), 02/02(日), 補講 02/09(日) 13:00-16:15
- 場所: 産業技術大学院大学 351a, 286PBL 教室
- 受講生 22 名

当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。



PBLの進め方と提出物

- チームとして
 - ・ コアミーティングの実施【12/22,2/2,2/9】
 - ・ 中間レビュー報告会:発表各15分【1/26】
 - ・ 成果発表会:発表各20分【2/29】
 - ・ プロジェクト成果物の提出【2/23 manaba経由】
- 個人として
 - ・ チーム組成報告【12/8】
 - ・ 週報の提出【12/8-2/9 毎週 manaba経由】
 - ・ セルフアセスメントの提出【12/22,2/28】

PBL活動の心得

- 個人活動ではなく、**チーム活動**である。
- 知識や技術を漫然と享受するのではなく、**自ら学修**する。
- 問題解決に必要な知識や技術を**自主的に学修**する
- 知識の応用方法を学び、問題解決のための**知恵を創造**する。
- グループ活動による**アイデアの発展・展開**を重要視する。
- チームメンバー同士の**相乗的学修効果**を体験する。
- プロジェクト活動の**プロセスと成果物**によって評価される。
- 計画と実績に乖離が生じた時の対応が重要である。
- 止むを得ない事情で、チームを変更する場合は、**主担当教員承認**を得た上で、**離脱側、加入側双方の了承**を得ること。

3.2.9 プログラム運用結果

本プログラム科目の履修状況は以下表7のとおり、基礎科目においては、受講生全員が必修にて受講する東京経済事情以外の選択必修4科目について、1科目平均約17名が受講し、必修選択2科目に合格した24名が事例研究型である事業デザイン要論に進んだ。更に、事業デザインに合格した23名の内、22名がPBL型科目であるシニアスタートアップ特論に進み、最終的に21名が本プログラムを修了した。授業評価アンケートによると、対象外のシニアスタートアップ特論以外の6科目は、5段階評価で3.84の評価平均を得ている。尚、担当講師には結果をフィードバックしつつ、講義内容の一層の改善を促している。

表 7 令和元年度プログラム受講者の集計

| | 履修者数 | 授業評価 | 合格者 |
|--------------|------|------|-----|
| 東京経済事情 | 25 | 3.60 | 25 |
| 経営戦略要論 | 21 | 3.88 | 20 |
| マーケティング要論 | 15 | 4.25 | 13 |
| ファイナンス要論 | 16 | 3.91 | 16 |
| IT イノベーション要論 | 14 | 3.82 | 14 |
| 事業デザイン要論 | 24 | 3.76 | 23 |
| シニアスタートアップ特論 | 22 | - | 21 |

3.2.10 PBL 成果発表会

令和元年度シニアスタートアップ特論のチーム構成は、「檜原村における地域ビジネスを考える」をテーマとしてタイトル別に4チーム。各チームの進捗については、担当教員によるコアミーティングの他、産業界及び公共機関から有識者レビュアーを招聘した中間レビューにおいて、プレゼンテーションを実施し、意見交換を行っている。

なお、予定していたPBL 成果発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止とした。

表 8 令和元年度 PBL

| | 人数 | タイトル |
|-------|----|--|
| A チーム | 7名 | 森と生きる ～ KumikiHinohara ～ |
| B チーム | 5名 | ～ 檜原から世界へ ～ Global Elite Boarding Schook Project |
| C チーム | 5名 | 東京里山 × ICT 認知症予防セラピー |
| D チーム | 4名 | TOKYO 檜原村 心と体のデトックス |

《A チーム》

- タイトル: 「森と生きる ～ KumikiHinohara ～」
- 内容: 以下、資料抜粋



私達が目指すもの

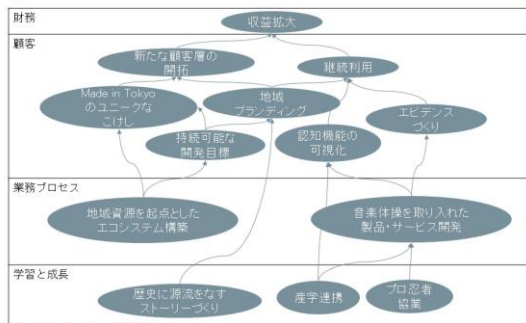
Mission

認知症と社会の垣根を取り払い、全世代が充実感をもって生きることができる高齢化社会を実現する。

Vision (2023年のありたい姿)

課題先進地の檜原村の高齢者が生き生きと生活できるような認知症予防サービスを提供し、日本全国へ展開する。

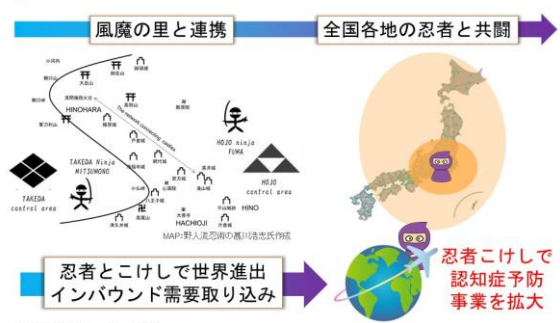
基本戦略



2020シニアスタートアップ特論

27

檜原村から世界へ事業拡大



2020シニアスタートアップ特論

34

事業ロードマップ

3年後の事業の本格展開に向け、コア・コンピタンスの構築に注力



2020シニアスタートアップ特論

40

収益見通し

3年目に黒字化、累損解消の見込み

(単位: 百万円)



2020シニアスタートアップ特論

48

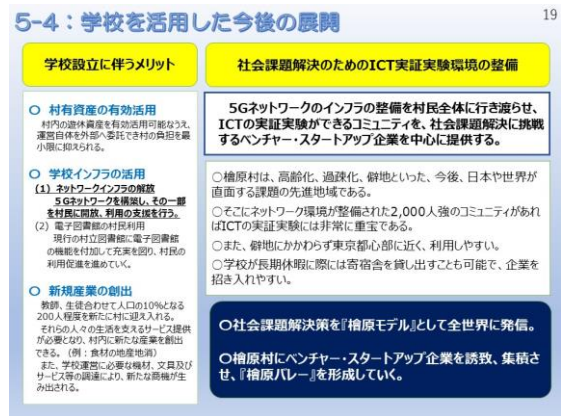
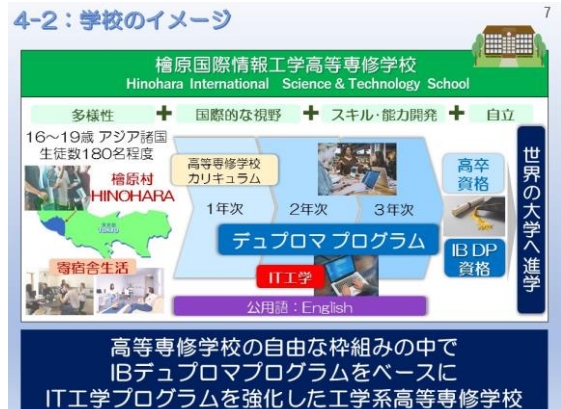
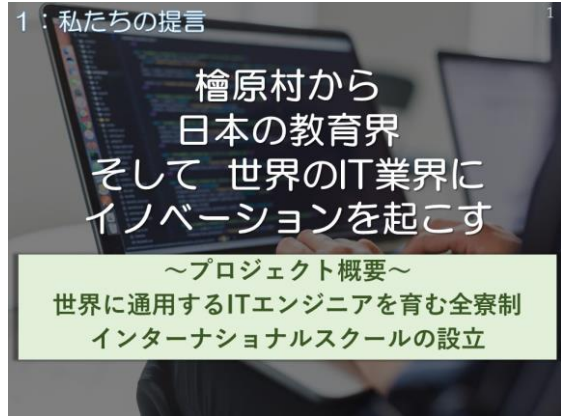
《B チーム》

- タイトル: 「～ 檜原から世界へ ～
Global Elite Boarding School Project」
- 内容: 以下、資料抜粋



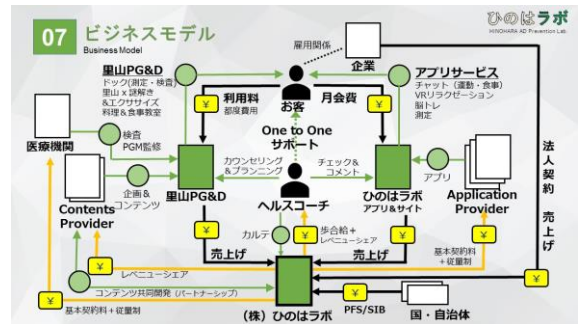
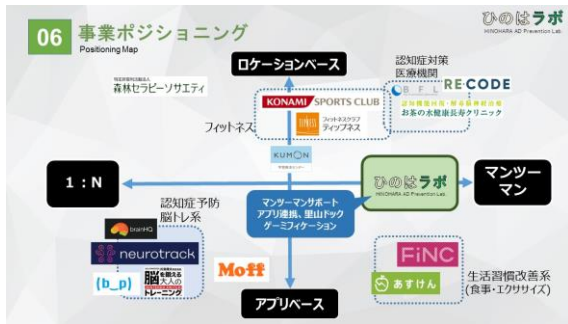
4-7: Global Elite Boarding School Project
ビジネス キャンパス モデル(BMC)

| パートナー | 主要活動 | 価値提案 | 顧客との関係 | 顧客セグメント |
|---|---|---|---|--|
| 1 0/0プログラム事業主体 2 産業技術大学院大学 3 エンジニア育成関連 4 国際的知識人達 5 檜原村の方々 6 コーチ・トレーナー 7 建築家(建築士) 8 制作家・作曲家 9 映画制作会社(制作) 10 吉川慶太郎-賛助者 11 東京都 12 経産省 | 現在の日本の教育に取り ない国際的に通用するグ レードを「エン지니어 ング」の枠組みで捉え、真 に国際人として認められ なければならない「リーダー」に なりたいという思いをも つ、グローバルな人 材を育成する。 13 プリンシパル育成 日本の教育・社会・企業 問題 14 メインの知識人達 → 橋本海宏(東京大学) → 稲原一(青山学院大学) → 佐藤 真(東北大学) → 山口 真一(東北大学) → 川田 誠(東北大学) 15 檜原村の方々 16 コーチ・トレーナー 17 建築家(建築士) 18 制作家・作曲家 19 映画制作会社(制作) 20 吉川慶太郎-賛助者 21 東京都 22 経産省 | 1 国際的なグレード → IB, DP 2 国際性 → 基本全て英語授業 3 国際的に通用する 言語的な人間力 4 ダイバーシティな 学生生活 5 プリンシパルを 含む知能の プログラム 6 最先端の情報工学 ベースの基礎力育成 7 分野の最前線の人 たちによるオリジナルの 学習キーム 8 インフレーションや 仮想通貨 9 対面(全国・世界) 10 対面(全国・世界) 11 対面 12 Web, 郵便、雑誌など の取材など 13 アシタリでは、 AIBが楽しむAPENL | 1 インフレーションや 仮想通貨 2 対面(全国・世界) 3 対面(全国・世界) 4 対面 5 Web, 郵便、雑誌など の取材など 6 アシタリでは、 AIBが楽しむAPENL | 1 日本の実力を誇らし げに示すこと 2 ジェンダー平等の 推進 3 東アジアで中国以外 のカウンターパートとし て日本を育てる 4 国際的な知識人達 の育成 5 国際的な知識人達 の育成 6 国際的な知識人達 の育成 7 国際的な知識人達 の育成 8 国際的な知識人達 の育成 9 国際的な知識人達 の育成 10 国際的な知識人達 の育成 11 国際的な知識人達 の育成 12 国際的な知識人達 の育成 13 国際的な知識人達 の育成 14 国際的な知識人達 の育成 15 国際的な知識人達 の育成 16 国際的な知識人達 の育成 17 国際的な知識人達 の育成 18 国際的な知識人達 の育成 19 国際的な知識人達 の育成 20 国際的な知識人達 の育成 21 国際的な知識人達 の育成 22 国際的な知識人達 の育成 |
| コスト構造 → これから、別紙にてご説明 | 収入構造 → これから、別紙にてご説明 | | | |



《Cチーム》

- タイトル: 「東京里山×ICT 認知証予防セラピー」
- 内容: 以下、資料抜粋



09 事業化計画・ロードマップ・KPI
Schedule & Roadmap

| FY20 | FY21 | | FY22 | | FY23 | | FY24 | |
|------|---|----------|------------------------------|----------|-------------|----------|----------------------------|-----|
| | 4月 | 10月 | 4月 | 10月 | 4月 | 10月 | 4月 | 10月 |
| | ★12月 会社設立 (資本金990万円) ★助成金確保 ★クラウドファンディング | | ★6月 βサービス開始 ★12月 正式サービス開始 | | ★4月 SIB開始目標 | | ★関西地区 展開 ★全国展開 開始 | |
| KPI | 目標登録ユーザー数 400 UU | 1,200 UU | 15% | 3,000 UU | 10% | 5,000 UU | 12% | |



《Dチーム》

- タイトル: 「TOKYO檜原村 心と体のデトックス」
- 内容: 以下、資料抜粋



課題 Problem 2

| 体重の増加 | 美しさと若さの衰え | 疲れがとれない |
|--|-----------|--|
| <p>「あなたは現在ダイエットをしていますか?」という質問をしたところ10.2%と答えた人が居た。「デトックスをしています」。また、42.8%が「ダイエットをしなくてもいいが、健康のためにしたい」と回答し、全体の73.0%の人に、「ダイエット意向があることが分かった」。</p> | | <p>普段の生活で慢性的な疲労を感じている人は66.1%。疲労を感じている人が疲労回復のためにすることは、「寝る」(66.9%)、「体を休める」(41.4%)が上位。</p> |

ビジョン, ミッション, バリュー Vision, Mission, Value 15

Vision 人と自然が持つ潜在力の可能性を追求し続ける。

Mission 「痩せたい」「きれいになりたい」「自分を取り戻したい」というニーズを、**デトックスサービス×豊かな自然を有する檜原村**のリソースで実現させる。

Value

- ・ひとりひとりの本来の**美しさ**や**健康**追求のお手伝い
- ・やすらぎとつながりの**場の形成**
- ・**植物性食材・自然環境**を生かしたサービスとアクティビティの提供

事業展開計画 Business development Plan 18

STEP 1

- ・デトックスのコミュニティを構築してマーケット育成
- ・デトックスに関する**商品・サービスの開発、販売**

STEP 2

- ・デトックスを活用する**農業、観光業へのコンサルティング**事業で業界ポジションの獲得
- ・**滞在型サービスのための施設**を作るために、**クラウドファンディング、債権化等の手法を活用し資金調達**

STEP 3

- ・デトックスの実践の場として檜原村に**滞在施設「TOKYO 檜原 デトックス・リトリート」**を開業

収益構造 Business Model 19

広告収入 ※単価:1ユーザー50円のメルマガで算定

ユーザー数 **5万人** × 年間広告単価 **2千円** = 売上 **1億円**

デトックス関連商品販売収入 ※毎月9千人が利用想定

年間販売総数 **4万人** × 1人あたり売上単価 **5千円** = 売上 **2億円**

宿泊サービス売上収入 ※標準定員数:40室/平均1室利用人数:1人/宿泊稼働率:95%/初期稼働率:80%/年次稼働率:45%

宿泊単価 **5万円** × 年間入居数 **8千人泊** = 売上 **4億円**

年間売上合計 **7億円**

【想定原価】
 広告: 0.3億円
 販売: 1.0億円
 宿泊: 1.2億円
 【年間経費】 3.5億円

資金計画 Financial Plan 20

デトックスに関する商品・プログラム開発: 2,000万円
 ECシステム構築、運営
 初期 1,000万円 運営費 100万円/年

宿泊施設建築費: **20億円**
 建築㎡単価: 50万円
独自試算:一般的な旅館の建築単価(※30万×グレード上昇率40%で算定)
 延床面積: **3,500㎡**
※重量床 50㎡×40室+2,000㎡+ゆったりとした共有スペース:1,500㎡
 造成、外構、設計監理料: 2億円

宿泊施設運営費
 人件費 給与:採用 **450万円**(初期)、給与 **4,000万円**(年間)
 責任者:採用 300万円、給与 1,000万円/年×2名
 サービススタッフ:採用 150万円、給与 400万円/年×5名
 水道光熱費他、運営費: **5,000万円**(年間)

年間費用(赤字) **3.5億円**

3.3 修了アンケート結果

アンケート結果は、評価平均が満足度 3.9、知人推薦度 3.5 と比較的高い一方、起業貢献度は 3.2、修了自慢度は 3.1 に止まっている。また、本プログラムの特徴への満足度は、受講費 4.5 平日夜間と土曜開講 4.1、学生間人間関係 4.2、PBL4.0 と高くなっている。一方で、コンピテンシー修得の評価平均は 3.4 と低くなっている。次年度以降は、起業家としてのコンピテンシー獲得に向けたプログラム充実を一層図っていくことが肝要と認識している。

表 9 プログラム受講満足度

| | 評価平均 | 回答者数 | 評価5 | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 満足度 | 3.9 | 18 | 4 | 10 | 3 | 1 | 0 |
| 起業貢献度 | 3.2 | 18 | 3 | 3 | 7 | 5 | 0 |
| 修了自慢度 | 3.1 | 18 | 1 | 5 | 7 | 4 | 1 |
| 知人推薦度 | 3.5 | 18 | 1 | 10 | 4 | 3 | 0 |

表 10 プログラムの特徴に関する満足度アンケート

| | 評価平均 | 回答者数 | 評価5 | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| PBL | 4.0 | 18 | 7 | 7 | 2 | 1 | 1 |
| 知識スキル修得 | 3.5 | 18 | 3 | 6 | 6 | 3 | 0 |
| コンピテンシー獲得 | 3.4 | 18 | 3 | 7 | 3 | 5 | 0 |
| 平日夜間開講 | 4.1 | 18 | 6 | 7 | 5 | 0 | 0 |
| 土曜開講 | 4.1 | 18 | 5 | 9 | 4 | 0 | 0 |
| 日曜開講 | 3.7 | 18 | 5 | 7 | 2 | 3 | 1 |
| 3段階制 | 3.8 | 18 | 4 | 9 | 2 | 3 | 0 |
| 8月開講 | 3.4 | 18 | 3 | 4 | 8 | 3 | 0 |
| インターネット視聴 | 3.8 | 17 | 6 | 4 | 5 | 2 | 0 |
| 受講費 | 4.5 | 18 | 10 | 7 | 1 | 0 | 0 |
| 図書館 | 3.7 | 18 | 6 | 4 | 5 | 2 | 1 |
| 設備等(教室等) | 3.4 | 18 | 1 | 6 | 10 | 1 | 0 |
| 学生間の人間関係 | 4.2 | 18 | 7 | 8 | 3 | 0 | 0 |

【自由記述】

〈あなたが本講座での学習や経験などを通じて得られて良かったと思うものを、順番に書いてください。
(例:スキルアップ、人脈、コミュニケーション能力等コンピテンシー、知識等)〉

- コミュニケーション能力
- コンピテンシー
- 人脈
- 起業における押さえるべき知識、経営・マーケティングの体系的な理解
- 起業した方の講義等による、起業としての心構え

〈本学がより良くなるためのご提案が有れば、具体的に書いてください。(教育内容、教育制度、PR 方法、設備等)〉

- ・基礎科目については、仕事の都合で2つしか受けられなかったもので、対面だけでなく、オンラインやMOOCのような形式の活用を検討いただきたい。
- ・秋葉原校舎での授業頻度を上げ、アクセスをより容易にした方が良い。
- ・選択科目を入学前に決めましたが、入学してから事情や環境が変わるので、選択の変更が出来るシステムがあったら良いと思います。
- ・全ての教室に机ごとに電源が来ていると良いと思います。
- ・基礎科目は五つ全て取りましたが、短期間に課題をこなさなくてはならず負担に感じました。もう少し期間に余裕をもたせるなどの工夫があってもいい気がします。
- ・実学を標榜することが、貴学の特色であるとするれば、地元(例:八潮地域、商店街、福祉施設)をフィールドとして、本講座のプロジェクトを継続するしくみがあれば、地元にも検討の成果がいかされる提携ができる可能性があると感じた。
- ・PBLに関しては、ルールが敷かれた状況で教員の意に沿うような活動を求められたと感じました。起業家を養成するという講座としては自主性や主体性を削がれる指導であったと感じます。助けが必要な状況になるまでは自由に活動させて欲しかったと思います。
- ・何故、檜原村をターゲットにしたPBLを実施するのか、何を求めているのかが全く理解できなかった。もし檜原村に貢献することに意義を置かないなら、テーマの設定は不要と思います。

付 録

令和元（2019）年度

AIIT シニアスタートアップ
プログラム
シラバス（授業概要）

基礎科目（講義・演習型科目）
事例研究型科目
PBL型科目



公立大学

産業技術大学院大学

ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|--------------------------|----|---|-----|-------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 必修 | 単位 | — | 学期 | 8月～2月 |
| 科目群 | 基礎科目 | 科目名 | 東京経済事情 | | | 教員名 | 板倉宏昭 |
| | | (英文表記) | Tokyo Economic Situation | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--|----|--------|-------------------|--|--|--|
| 概要 | 活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く東京の経済事情を学ぶ。行政の政策やスタートアップ企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。 | | | | | | | |
| 目的・狙い | 地域としての東京都が抱える課題とは何かを見出すことは、グローバル都市が抱える課題とは何かを理解することに通じる。各界マネジメントのパースペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、問題意識を明確化しどのような未来を描き、どのような課題を解決していきたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。 | | | | | | | |
| 前提知識 (履修条件) | 組織におけるマネジメント経験があることが望ましい。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 上位到達目標 | | | | | | | |
| | 自ら起業することを想定して各界のマネジメントのパースペクティブを獲得することで、新たな目で東京地域の現状から、課題を設定、その課題解決能力を獲得する。 | | | | | | | |
| | 最低到達目標 | | | | | | | |
| 東京都の現状を多角的な視野で理解する。自ら起業することを想定して問題意識を高める。 | | | | | | | | |
| 授業の形態 | 形態 | | 実施 | 特徴・留意点 | | | | |
| | 録画・対面混合授業 | | — | | | | | |
| | 対面 授業 | 講義（双方向） | | ○ | 講演者とのディスカッションを実施。 | | | |
| | | 実習・演習（個人） | | — | | | | |
| | | 実習・演習（グループ） | | — | | | | |
| | サテライト開講授業 | | — | | | | | |
| その他 | | — | | | | | | |
| 授業外の学習 | 各講義の前に分野についての予習を行う。また、興味を持った課題についてはインターネットや書籍などで自己学習を進めていく。 | | | | | | | |
| 授業の内容 | <p>各回、オムニバス方式にてゲスト講師を招聘して実施する。1回(90分)講義につき、ゲスト講義の後、クラスディスカッションを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当講師との質疑応答の時間があり、積極的な参加が望まれる。 <p>* 講師（オムニバス）の詳細が決定次第、Webにて適宜お知らせします。</p> <p>* 講義内容、日程は講師との調整により変更可能性がある。</p> | | | | | | | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 | | | | | | |
| | 第1回 | <p>講師：川田誠一氏 産業技術大学院大学 学長</p> <p>講演内容：「技術倫理」</p> <p>本講義では、技術倫理について学び、あらかじめ判断力を養うトレーニングすることを学ぶ。企業を取り巻くいろいろな問題が発生したとき、トップとしての判断、中間管理職としての判断、一般社員としての判断は、それぞれの立場によって異なるであろう。また、法的な視点での議論は法学にゆだねるとしても、すべての法を熟知して産業活動を実施することが困難な状況で最低限守るべき倫理基準などを学ぶことで、自然に法に抵触することなく業務活動が円滑に実施できるようになるメリットは大きい。本授業は講義と事例について考える演習とを通じて受講者が判断力を培うことを支援する。</p> | | | | | | |
| 第2回 | <p>講師：橋本孝之氏 日本IBM名誉相談役</p> <p>講義内容：「日本の現状と課題」</p> <p>本講義ではグローバル企業に身を置く中で見えてきた日本の課題を考察する。世界は、政治・経済・産業、またその背景となるサイエンステクノロジーの分野で急速な変革のなかにある。新産業革命の波の中でどのように次の時代を切り開くのか自ら対応を求められる時代である。新産業革命で生き抜く処方箋とは。そしてその中で必要とされるリーダーシップとは何かをIBMの変革の事例を交えて紹介する。</p> | | | | | | | |

| | | |
|--------|--|--|
| | 第3回 | 講師：森 勝 氏 東京都中小企業振興公社事業戦略部創業支援課長 講演内容：「東京都における創業支援施策について－東京都中小企業振興公社の支援事例を中心に－」 日本の起業の現状と課題、東京都の起業に関する政策、東京都中小企業振興公社の支援事例についてお話しします。 |
| | 第4回 | 講師：坂本 義次 氏 檜原村長 講義内容：「檜原村の現状と課題等」 檜原村の概要から現在までに行ってきた取組み、また今後の課題/展望についてお話しします。 |
| | 第5回 | 講師：米内 淨 氏 タマチ工業株式会社 代表取締役社長 講義内容：「リーダーシップの発揮(挑み続ける、その先に。)」 自身の経験と実績に基づいたリーダーのあるべき姿についてお話しします。 |
| | 第6回 | 講師：中川 利光 氏 檜原村 東京牧場(株) 代表取締役 講義内容：「経営理念と人生残り時間をかけた挑戦～ここは東京檜原村～」 自身が会社を経営することで経験してきたこと、それらによって得たものと失ったもの、残り少なくなった時間を使ってこれからやりたいことなどをお話しします。 |
| | 第7回 | 講師：多田 興平氏 (株) Piezo Sonic 代表取締役 講義内容：「日本における会社組織と起業 - 競合に対するアドバンテージの検証 - 」 起業を成功させるためのknow/how、起業家になるための適性、心得、及び覚悟に関して、経験に基づいてお話しします。 |
| | 第8回 | 講師：品川区地域振興部商業・ものづくり課 産業活性化担当 アイ・コンポロジー(株) 三宅 仁 様 (株)テクノアクセルネットワークス 山内 直樹 様 講義内容：「品川区の創業支援等事業・区内事業者の経営について」 品川区の創業支援等事業について説明するとともに、区内SHIP 品川産業支援交流施設に入居する事業者から自身の創業から現在の経営状況等についてお話しします。 |
| 教科書・教材 | 必要に応じて各講師から提示する。 | |
| 参考図書 | 必要に応じて各講師から提示する。 | |
| 成績評価 | 担当教員からのレポート課題100%。 講師は最低到達目標を基準に合否によって実施する。 | |

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|----------------------|----|---|-----|-------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 選択 | 単位 | — | 時期 | 8月～9月 |
| 科目群 | 基礎科目 | 科目名 | 経営戦略要論 | | | 教員名 | 原田保 |
| | | (英文表記) | Strategic Management | | | | |

| | | | | |
|----------------|---|--|--------|--|
| 概要 | <p>起業や企業経営などに不可欠な戦略、とりわけ経営戦略について、実践的な視角からの講義が展開される。言い換えれば、本講義は実践的な戦略感を養成するための直感的な閃きと、これを実体化させる基礎的な理論に関する知識の習得を指向するために、インタラクティブな場の構築が期待される。また、特に重視される戦略は、日本人が好むコンテンツ主義からの戦略デザインではなく、欧米人が得意とするコンテキストからの戦略デザインである。これによって、コンテンツドリブンのモノづくり主義からの脱却を図り、コンテキスト指向の価値づくり能力の獲得ができるようになる。</p> | | | |
| 目的・狙い | <p>たとえ規模が小さくても、グローバルに通用する組織の構築能力と、これらの組織へのマネジメント能力の獲得が指向される。つまり、何かを自らの手でつくりあげるビジネスなどではなく、例えばシステムやオペレーションへの科学的な実践行動によって現出されるプラットフォームに依拠したビジネスモデルの構築能力を保持している起業家や経営者の育成が指向される。併せて、ビジネスデザイン能力を保持するとともに、多様なコミュニケーション能力を保持する起業家や経営者の育成も試みられる。</p> | | | |
| 前提知識 (履修条件) | <p>受講者としては、起業を指向する人やイノベティブなビジネスモデルの構築をコンテキストに依拠して展開する能力の獲得を指向する人が期待されている。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>上位到達目標</p> <p>目指されるべきは、一人あるいはグループで起業が可能な能力の獲得、およびこれに有益なネットワーキングが可能になる能力の一定程度の獲得である。</p> | | | |
| | <p>最低到達目標</p> <p>受講者が高度プロフェッショナルとして、いわば自由裁量型の働き手として社会に貢献できる人材を輩出する人材にふさわしい知見や行動力を習得することである。そのため、本講義では、起業に強く求められる有益な知見などを習得することのほか、コンテキストデザインを理解し、自分なりの言葉で提案、発表できること、それをレポートとして提出することを求める。</p> | | | |
| 授業の形態 | 形態 | 実施 | 特徴・留意点 | |
| | 録画・対面混合授業 | — | | |
| | 対面授業 | 講義（双方向） | ○ | |
| | | 実習・演習（個人） | ○ | |
| | | 実習・演習（グループ） | — | |
| | サテライト開講授業 | — | | |
| その他 | — | | | |
| 授業外の学習 | <p>教科書を含め、関連する文献、資料を事前あるいは事後に読んでおくが良い。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>まずは講義テーマに依拠しながら、基礎的な能力の獲得を可能にする初歩的な知見の習得を可能にするための導入的な講義が行われる。その後、これを踏まえた受講者によるプレゼンテーションが行われることになり、これを踏まえたディスカッションが行われる。最終的には、自身の起業プランの開示をお願いすることになるが、これに対して受講生同士で有効な評価をすることも期待されている。また、これに関連する情報や考察についての討議も適宜に展開される。ここは、あくまでも個人ベースの能力の発揮が期待される場となる。</p> | | | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 | | |
| | 第1回 | <p>共通認識を獲得するために原田による導入講義が行われる。戦略論についての全般的な理解を深めることを目指す。とりわけ、コンテキストデザインの重要性が強調されることから、コンテキストデザイン手法をマスターすることが指向されることになる。</p> | | |
| | 第2回 | <p>受講生による起業計画や経営戦略や経営管理に関する考え方などの披露と、これを踏まえたディスカッションが行われる。これらを通じて、どのようなケースにどのようなアプローチがフィットするのかを考えていく。</p> | | |
| | 第3回 | <p>コンテキストデザインの方法論を、事例を踏まえてマスターする。教科書の事例に関する戦略などの討議が、受講生の報告に基づいて行われる。なお、情報の共有化を図るために、受講生はプレゼン資料を配布することが義務付けられる（以下、同様である）。</p> | | |

| | | |
|--------|-----|--|
| | 第4回 | 第3回と同様である。 |
| | 第5回 | 今後期待ができる都市型ビジネスを捉えたクリエイティブビジネスに関する戦略などの方向性や内容についての考察が行われる。特に、ここでは付加価値の創造を指向したビジネスモデルの独創性に関する考察が行われる。講義の形式は、第3回、第4回と同様である。 |
| | 第6回 | 第5回と同様である。 |
| | 第7回 | 現在の重点課題である少子高齢化、地方の過疎化を捉えた地域ビジネスに関わる戦略デザインに関する考察が行われる。ここでは、トポスデザインによる地域価値発現のための方法論の考察が行われる。講義の形式は、第3回、第4回と同様である（ここでは、報告は希望者のみである）。 |
| | 第8回 | 受講生による、自身のテーマに関する何らかの提言を簡単に報告する。同時に、1ページ1000文字、4ページ程度で、レポートの提出が期待される。なお、これも、情報の共有化のために、資料は全員に共有することが義務付けられる。 |
| 教科書・教材 | | ① 原田保・三浦俊彦・高井透編著『コンテキストデザイン戦略』芙蓉書房出版。 ② 原田保編著『クリエイティブビジネス論』学文社。 ③ 原田保・山田啓一・石川和男編著『地域イノベーションのためのトポスデザイン』学文社。 |
| 参考図書 | | ポーター、並びにバーニーの戦略論。 |
| 成績評価 | | レポート及び発表100%。評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。 |

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|-----------|----|---|-----|-------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 選択 | 単位 | — | 時期 | 8月～9月 |
| 科目群 | 基礎科目 | 科目名 | マーケティング要論 | | | 教員名 | 江戸克栄 |
| | | (英文表記) | Marketing | | | | |

| | | | | |
|----------------|---|--|--------|--------------------|
| 概要 | 現代企業におけるマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識だけではなく、実践的な「分析力」と「創造力」を養う必要がある。本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を習得するだけではなく、演習を通してマーケティングに必要なマーケティング・マインドを養っていく。さらに、現代社会の潮流を分析した上で、今後のマーケティングの中で重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会について考察していく。 | | | |
| 目的・狙い | ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識を学習するだけではなく、実践的に現代企業を取り巻く市場環境を理解することができる「分析力」とそれに対応するためのマーケティング戦略を立案できる「創造力」を養うこと目的とする。 | | | |
| 前提知識 (履修条件) | 教科書を読み、章末のキーワードの意味を理解してくること。 | | | |
| 到達目標 | 上位到達目標 | | | |
| | 最低到達目標に加えて、現代企業を取り巻く市場環境を理解することができる「分析力」とそれに対応するためのマーケティング戦略を立案できる「創造力」を養うことを到達目標とする。 | | | |
| | 最低到達目標 | | | |
| | 次に挙げる基本的マーケティング知識について理解することを到達目標とする。 ・マーケティングの定義 ・マーケティング・プロセス ・STP (Segmentation, Targeting, Positioning) ・マーケティング・ミックス | | | |
| 授業の形態 | 形態 | 実施 | 特徴・留意点 | |
| | 録画・対面混合授業 | — | | |
| | 対面授業 | 講義(双方向) | ○ | プレゼンテーション・ディスカッション |
| | | 実習・演習(個人) | ○ | マーケティング・ミックスの策定など |
| | | 実習・演習(グループ) | — | |
| | サテライト開講授業 | — | | |
| その他 | — | | | |
| 授業外の学習 | 教科書章末の演習問題を予習、復習する。 | | | |
| 授業の内容 | 本講義では、伝統的マーケティングマネジメントの基本的知識(マーケティングの歴史、マーケティング・コンセプト、定義、マーケティング・プロセス、市場環境分析、STP、マーケティング・ミックス等)を習得するだけではなく、「分析力」及び「創造力」を養うことを目的とした演習を行う。さらに、近年重要になってきている顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。本授業ではマーケティング理論だけではなく、広範囲の事例研究を通してマーケティングへの理解を深められるようにする。 | | | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 | | |
| | 第1回 | イントロダクション ・マーケティングとは ・マーケティングの登場と歴史 ・マーケティングの主体と対象 | | |
| | 第2回 | 市場環境分析とSTP (Segmentation, Targeting, Positioning) ・市場環境分析(マクロ環境とミクロ環境)とマーケティングリサーチ ・マス・マーケティングとターゲット・マーケティング ・市場細分化と市場ターゲットの確定 | | |
| | 第3回 | 市場環境分析とSTP (Segmentation, Targeting, Positioning)【演習】 ・現代企業を1つ選び、その市場環境(マクロ環境とミクロ環境)を分析する ・市場環境分析をした上で、市場細分化を行い、市場ターゲットを確定する。 ・競合の分析を行い、ポジショニングを行う。 | | |

| | | |
|--------|--|--|
| | 第 4 回 | マーケティング・ミックス（1） ・商品・サービス政策（商品概念、ブランド戦略） ・価格政策（価格戦略と価格政策） |
| | 第 5 回 | マーケティング・ミックス（2） ・流通チャネル政策（流通の現状、流通チャネル選択） ・プロモーション政策（コミュニケーション・ミックス、メディア） |
| | 第 6 回 | 新しいマーケティングの考え方 ・顧客志向と関係志向のマーケティング ・情報化とグローバル・マーケティングに向けて |
| | 第 7 回 | マーケティング・ミックスの策定①【演習】 ・現代企業のマーケティング・ミックスについて策定する。 ・市場ターゲットからマーケティング・ミックスまでの一連のマーケティング戦略を策定する。 |
| | 第 8 回 | マーケティング・ミックスの策定【演習】 ・立案したマーケティング戦略のプレゼンテーションを行う。 ビジネススタートアップ期とマーケティング ・マーケティングが果たす役割について |
| 教科書・教材 | 和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2016]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマ | |
| 参考図書 | 参考文献、参考資料については随時授業中に紹介する。 | |
| 成績評価 | 最終試験（もしくはレポート・課題）90%、積極的な授業参加、ディスカッションポイント等（出席した事実のみでは評価しない）10%。評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。 | |

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|-----------------|----|---|-----|-------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 選択 | 単位 | — | 時期 | 8月～9月 |
| 科目群 | 基礎科目 | 科目名 | ファイナンス要論 | | | 教員名 | 三好祐輔 |
| | | (英文表記) | Venture Finance | | | | |

| | | | | |
|----------------|--|------------------------------------|----------|---------------|
| 概要 | <p>本講義の目標は、経営者の立場に必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義を通して、企業財務に関する実践的知識・スキルの取得と問題発見と解決・提案力を培えるように支援する。具体的には、財務分析の基礎的手法を学び、財務状況を把握できるようにする。そして、資金制約の中で企業価値最大化の目標を達成するために必要な方法を学ぶと共に外部からの資金調達に関わる基本的な関係について理解を深める。本講義では、ベンチャーキャピタル等のアントレプレナーに独特のファイナンスと、企業評価の手法等コーポレート・ファイナンスの領域においてアントレプレナーに有用なもの、双方について学ぶ。</p> | | | |
| 目的・狙い | <p>企業価値経営に対するファイナンスの目的は、倒産しないこと、資金提供者の要求リターンを満たすことである。企業価値経営とは、企業が経済的付加価値を生み資金提供者をはじめとする企業の利害関係者の満足度を高めることである。どのような経営戦略が企業価値を高めることになるかを考察する。受講者は、企業の財務状態がどのように変化するかを分析し、次の経営戦略の策定が出来るようにする。同時に、資本市場において企業価値がどのように決まるかの基礎について理解を深める。そして企業価値を向上させることが出来ることを目指す。以上を踏まえ、本講義ではアントレプレナー・ファイナンスにおける様々な論点を概観し、基礎的素養を習得することを目的とする。</p> | | | |
| 前提知識 (履修条件) | <p>企業価値計算など実施に際して使用するエクセル表計算ができる。 経営戦略に関する知識が、あることが望ましい。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>上位到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業価値経営をファイナンスの観点から説明できる。 ・企業価値経営に対するファイナンスが果たす役割を具体的に理解する。 ・企業価値経営や事業戦略の策定や実証分析を行うことができる。 | | | |
| | <p>最低到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンスへの関心を深める。 ・企業価値経営とファイナンスに関する基本的な概念を理解し、説明できる。 ・実証分析に関する方法を理解する。 | | | |
| 授業の形態 | 形態 | | 実施 | 特徴・留意点 |
| | 録画・対面混合授業 | | — | |
| | 対面授業 | 講義(双方向) | ○ | |
| | | 実習・演習(個人) | — | |
| | | 実習・演習(グループ) | ○ | チームにて課題実習実施する |
| | サテライト開講授業 | | — | |
| その他 | | ○ | 授業へのPC持参 | |
| 授業外の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・予習：レジュメ(パワーポイント)を配布する。 ・復習：学んだ部分を中心に、自らが選定した企業について講義で扱った内容を反復する。 | | | |
| 授業の内容 | <p>企業の経営戦略や投資戦略において、リスクに見合ったリターンを獲得するためには、ファイナンスの知識の修得は不可欠である。この領域に関する知識がなければ、過度にリスク回避的になるか、あるいはリスクを負担し過ぎる行動に陥ることになる。本講義では、新規開業企業・ベンチャーやアントレプレナーシップ(企業家活動)が有するファイナンスに関する現代的意義と課題について考察する。そして講義を通じて、具体的な事例を考察する能力や洞察を得るスキルを修得する。</p> | | | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 | | |
| | 第1回 | ベンチャーファイナンスとは？(スタートアップ支援とエンジェル投資家) | | |
| | 第2回 | ファイナンスで用いる会計の基礎 | | |
| | 第3回 | ファイナンスの基礎(デュポンシステム、リアルオプション) | | |

| | | |
|--------|---|--|
| | 第 4 回 | アントレプレナー・ファイナンスでの企業価値評価 (IRR、Money Valuation、Dilution) |
| | 第 5 回 | WACC (加重平均資本コスト) と企業価値評価 |
| | 第 6 回 | 割引キャッシュフロー法とは? |
| | 第 7 回 | 平均・分散アプローチと β とシャープ・レシオ |
| | 第 8 回 | 課題実習のグループ発表 |
| 教科書・教材 | なし。 | |
| 参考図書 | 仁科一彦(2004)『現代ファイナンス理論入門』(中央経済社) 忽那 憲治(2013)『MBA アントレプレナーファイナンス入門』(中央経済社) 板倉宏昭(2017)『新訂 経営学講義』(勁草書房) | |
| 成績評価 | 最終試験 20%、積極的な授業参加、ディスカッションポイント (出席したことのみでは評価しない) 20%、レポート 60%。評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。 | |

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|-------------|----|---|-----|-------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 選択 | 単位 | — | 時期 | 8月～9月 |
| 科目群 | 基礎科目 | 科目名 | ITイノベーション要論 | | | 教員名 | 戸沢義夫 |
| | | (英文表記) | | | | | |

| | | | | |
|----------------|---|--|--------|-------------------|
| 概要 | <p>現在の情報社会では、各種の業務で情報システムを活用することが増加している。従来の情報システムの役割はデータ管理と定型業務の自動化による効率化が主であった。しかし、今後はデータ取り込みと情報共有手段としての役割がさらに重要になってくる。最近では情報システムの専門家でなくても、業務に精通していれば、容易にクラウドを活用してシステム開発できるようになった。日本発のソフトウェアがグローバル展開し海外で使われている例はほとんどないが、サイボウズ社のクラウドを活用したKintone は例外的に海外（主に米国西海岸）で利用され始めている。Kintoneはプログラミング経験が無くても容易に情報システムを構築できるので、本授業では身近なテーマを選び実践する。また、Jimdoによるホームページ作成を通して外部とのコミュニケーション構築方法を学ぶほか、最近話題のテーマ（ブロックチェーンや人工知能など）について解説する。</p> | | | |
| 目的・狙い | <ul style="list-style-type: none"> 日本発のソフトウェア Kintone を理解する。Kintone による情報システムの構築を4名程度のグループで実際に行い、Kintone が提供する開発方法を体験する。 CMS(Contents Management System)を具現化したJimdoによるホームページ作成を体験する。 仮想通貨を実現しているブロックチェーンがどのようなものかを理解し、その特長と脆弱性がどこにあるかについて正しい認識を持つ。また、人工知能について、今までと現在、未来について正しい判断ができるようになる。 | | | |
| 前提知識 (履修条件) | <ul style="list-style-type: none"> プログラミング経験は不要だが、キーボード操作できる必要がある。 ExcelやWordの経験が有るのが望ましい。 | | | |
| 到達目標 | 上位到達目標 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> Kintone を使いこなし、自力で業務に活用できるシステムを構築できるレベル 自分が提供するサービスにつき、ホームページを介して外部に効果的に表現できるレベル | | | |
| | 最低到達目標 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> Kintone がどのようなものかを理解できるレベル Jimdoを使って自分のホームページ作成できるレベル | | | |
| 授業の形態 | 形態 | 実施 | 特徴・留意点 | |
| | 録画・対面混合授業 | — | | |
| | 対面授業 | 講義（双方向） | ○ | |
| | | 実習・演習（個人） | | |
| | | 実習・演習（グループ） | ○ | 実際の演習・操作で理解度を高める。 |
| | サテライト開講授業 | — | | |
| その他 | — | | | |
| 授業外の学習 | <ul style="list-style-type: none"> 講義時間以外に Kintone、Jimdoを操作してみる グループ作業が多いので、グループウェアを活用したチームディスカッションを推奨する | | | |
| 授業の内容 | <ul style="list-style-type: none"> 1チームは4名程度とし、複数のチームを作る。 チームごとに Kintone、Jimdo で構築するシステムのテーマを自分たちで決定する。 チームメンバーは手分けして自分が担当する部分を作成する。 最終的に、チームごとにどのようなシステムを構築したかをデモしながら全員に説明する。 講義は適宜行う。レポートは課さない。 | | | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 | | |
| | キックオフ | パソコン環境セットアップ（ネットワーク、Kintone、Jimdo） チーム分け 科目の目的、学習の進め方、チーム目標の設定 | | |
| | 第1回 | 第1日 個人到達目標の設定 Kintone によるシステム構築、Jimdoによるホームページの企画・計画 | | |

| | | |
|--------|---|--|
| | 第2回 | Kintone によるシステム構築 |
| | 第3回 | 第2日 講義1 (AI:人工知能) Kintone によるシステム構築、Jimdoによるホームページ作成 |
| | 第4回 | Kintone によるシステム構築 |
| | 第5回 | 第3日 Kintone によるシステム構築 |
| | 第6回 | Kintone によるシステム構築 |
| | 第7回 | 第4日 各チームによるデモと説明、Jimdoの評価 |
| | 第8回 | 講義2 (ブロックチェーン) Wrap up |
| 教科書・教材 | 資料は適宜配布する。 | |
| 参考図書 | 講義時に適宜指示する。 | |
| 成績評価 | <p>第7回のデモ・説明をチームごとに評価。</p> <p>チーム内での貢献が顕著と判断できる場合、又は、ほとんどチームへの貢献が認められない場合は、チーム成績に加えて個人貢献分を考慮して個人評価とする。講義の理解度は評価しない。</p> <p>評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。但し、出席回数3日以上。</p> | |

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|-----------------|----|---|-----|-----------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 選抜 必修 | 単位 | — | 時期 | 10月～11月 |
| 科目群 | 事例研究型科目 | 科目名 | 事業デザイン要論 | | | 教員名 | 戸沢義夫/亀井省吾 |
| | | (英文表記) | Business Design | | | | |

| | | | | |
|----------------|--|-------------------------------|--------|---|
| 概要 | 既存の事業開発・事業改革の事例(ケース)を研究する。事例を理解し、成功あるいは失敗の理由等を調査・議論することで、事業マネジメントを擬似経験する。ビジネス環境の変化はどうか、ステークホルダーは誰か、ビジネスモデルはどうなっているか、ビジネスプロセス等を正しく把握する。ビジネス目標、経営戦略に照らして、どのような課題があるかを明確にする。与えられた事例に対して、チームで検討し、結果をプレゼンテーションする。初回にチーム分けをしますので受講者は必ず参加すること。 | | | |
| 目的・狙い | 3～4名のチームで与えられた事例(ケース)を多角的に検討する。ケースに書かれた内容を前提とするが、不足している情報はチームで独自に収集する。仮説・検証の考え方が求められる。自分の考え方と他メンバーとの考え方に違いがあった場合に、なぜ自分は他メンバーと違う発想をしたかについて自省することが教育の基本になる。他メンバーがどのように考えているかを聞き出すケイパビリティが重要である。チームとしてひとつの結論に至る必要があるが、チームメンバー全員がその結論に至った理由を同じように説明できることが求められる。良いチーム成果を出すことだけが教育目的ではない。チームメンバー全員が誰でもチーム成果を説明でき、質問に答えられることが要請される。複数のチームが同じケースに対して異なった結論を出している場合は、その違いが生じた理由についてクラス全体で議論する。チームが検討した内容で触れるべきなのに触れていない事柄について教員が指摘し、なぜ検討しなかったのかをクラス全体で議論する。チームとして与えられたケースでの事業(仕事)のやり方を分析し、良い部分と課題を他人にわかるように整理する。オーディエンスを対象に、誰でもわかることを目的としたプレゼンテーションを実施する。分析結果の論理的説明と納得性が極めて重要である。 | | | |
| 前提知識 (履修条件) | 企業での仕事の経験、ビジネス経験があるのが望ましい。 | | | |
| 到達目標 | 上位到達目標 | | | |
| | ビジネスを分析し、ビジネスモデル、ビジネスオペレーション、ビジネス環境、制約やコンテキスト、組織構造、ポジショニング、ステークホルダー、ビジネス戦略、ビジネス価値、ビジネス課題などを、他人にわかるように独力でまとめ提示できる。 | | | |
| 到達目標 | 最低到達目標 | | | |
| | ビジネスを分析するタスクのチームメンバーとして、チームに貢献できる。 | | | |
| 授業の形態 | 形態 | 実施 | 特徴・留意点 | |
| | 録画・対面混合授業 | — | | |
| | 対面 授業 | 講義(双方向) | ○ | |
| | | 実習・演習(個人) | — | |
| | | 実習・演習(グループ) | ○ | 与えられたケースをチームで集中的に取り組む。ケースについて、1.ケース配布、2.講義・チーム議論、3.成果発表とクラス議論から成る。1と2、2と3は十分な間隔を置き、チームコミュニケーションを行えるようにする。 |
| | サテライト開講授業 | — | | |
| その他 | — | | | |
| 授業外の学習 | 与えられたケースについて、情報収集・分析、プレゼンテーションの準備など、チーム活動を行う上で必要な事前に行うべき個人活動を行う。ケースについて8時間以上の授業外活動が必要である。 | | | |
| 授業の内容 | 1.ケース配布・キックオフ・講義(1コマ) 土曜 6限 2.講義・チーム議論(6コマ) 休日 3～5限 3.成果発表とクラス議論(1コマ) 土曜 6限 | | | |
| 授業の計画 | 回数 | 内容 | | |
| | 第1回 | 講義・キックオフ・チーム分け ケース配布 土曜 6限 | | |
| | 第2回 | 講義 | | |
| | 第3回 | チーム議論 | | |

| | | |
|--------|--|------------|
| | 第 4 回 | チーム議論 |
| | 第 5 回 | 講義 |
| | 第 6 回 | チーム議論 |
| | 第 7 回 | チーム議論 |
| | 第 8 回 | 成果発表とクラス議論 |
| 教科書・教材 | 教科書は特に指定しない。 ケースは配布する。 | |
| 参考図書 | 必要に応じて指示する。 | |
| 成績評価 | ケースのチーム発表(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(60%)、個人活動内容(25%)、クラス議論での参画度合(15%)。 評価は最低到達目標を基準に可否にて実施する。但し、出席回数5回以上(第1回と第8回は出席必須)の者のみ評価する。 | |

| | | | | | | | |
|-------|------------|--------|------------------------|----|---|-----|-----------|
| プログラム | シニアスタートアップ | 必修・選択 | 選抜 必修 | 単位 | — | 時期 | 12月～2月 |
| 科目群 | PBL | 科目名 | シニアスタートアップ特論 | | | 教員名 | 板倉宏昭/亀井省吾 |
| | | (英文表記) | Project Based Learning | | | | |

| | |
|--|---|
| 概要 | 基礎科目では、知識とスキルを修得するが、これだけでは事業を開発し起業するには不十分である。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠である。当科目では、スタートアッププログラムの最終段階として、社会の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL(Project Based Learning)型の演習授業を行う。 |
| 目的・狙い | 当科目の履修段階では、以下の知識・スキル・経験等を有していることが想定・期待される。 (1)本プログラム受講前から既に有している知識・スキル・経験 (2)講義・演習型の基礎科目で修得した知識・スキルと対象領域の現状・課題等 (3)事例研究型科目で学んだ事業開発手法 これらの知識・スキル・経験等を活用・駆使して、PBL型のプロジェクト演習を行うことで、起業型の高度人材に期待される経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)を獲得する。 |
| 前提知識 (履修条件) | <ul style="list-style-type: none"> 基礎科目2科目(必修除)を修了していること。 事例研究型授業(事業デザイン要論)を修了していること。 PBLキャンプ(11/23-24)に参加していることが望ましい。 |
| 到達目標 | 上位到達目標 |
| | 問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を牽引することができ、また関係者を指導することができるレベル。 |
| | 最低到達目標 |
| 問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を適切に実行できるレベル。 | |
| 授業外の学習 | 授業活動に必要なとされる事前学修、またメンバーに分担された活動中の課題作業(調査、プログラミング、ドキュメント作成等)を行う。 |
| 授業の内容 | 原則として、8週間程度以上の活動を計画的に行う。また、月1回以上のコアミーティング(教員報告)、週1回の週報(週間活動報告)提出を適切に行うこと。尚、中間時には起業家等によるレビューを実施し、最終成果につき、発表会にてのプレゼンテーションを実施する。 |
| 成績評価 | チームでのコアミーティング報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(50%)、最終成果発表(50%)。評価は合否にて実施する。 |

令和元（2019）年度

履修証明プログラム

AIITシニアスタートアップ プログラム

基礎科目（講義・演習型科目）

受講者募集要項

| | |
|---------|----------------------------|
| 出願受付 | 令和元年5月27日(月)から7月5日(金)必着 |
| 選考手数料納期 | 令和元年5月27日(月)から7月4日(木)23時まで |
| 選考試験 | 令和元年7月15日(月・祝)実施 |
| 選考結果 | 令和元年7月22日(月)郵送(予定) |
| プログラム開講 | 令和元年8月11日(日・祝)から |



公立大学

産業技術大学院大学

ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY

目 次

| | | |
|----|------------------------------|----|
| 1 | AIIT シニアスタートアッププログラムの概要 | 1 |
| 2 | 出願資格 | 2 |
| 3 | 定員（各選択科目） | 2 |
| 4 | 受講期間 | 2 |
| 5 | 講義時間 | 3 |
| 6 | 選考手数料及び納入方法 | 3 |
| 7 | 受講料 | 3 |
| 8 | 出願（Ⅰ. 事前審査対象の方、Ⅱ. 事前審査対象外の方） | 4 |
| 9 | 選考（基礎科目受講） | 5 |
| 10 | 合否通知 | 5 |
| 11 | 修了要件（履修証明書交付要件） | 5 |
| 12 | 問い合わせ先 | 5 |
| | 開設科目一覧・日程予定表 | 6 |
| | 支払手順 | 7 |
| | 交通アクセス | 8 |
| | (別添) | |
| | 様式1：「出願資格審査申請書」 | 9 |
| | 様式2：「受講願書」 | 10 |
| | 様式3：「科目受講申請書」 | 11 |
| | 試験会場へのアクセス | 12 |

●履修証明制度について

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学等が教育研究成果を社会に提供する取組に加え、より積極的な社会貢献を促進するため、主に社会人等の学生以外の者を対象とした体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書（Certificate）を交付するものです。

※平成31年4月1日以降に開始する履修証明プログラムより、総時間数の要件が「120時間以上」から「60時間以上」に短縮。

「AIITシニアスタートアッププログラム」は、総時間数84時間の履修証明プログラムです。

1 AIIT シニアスタートアッププログラムの概要

本プログラムは、起業を目指すシニアの方が起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得できるよう、大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しを推進するものです。

本プログラムの実施にあたって、産業技術大学院大学（AIIT）は、東京都及び産業界等の協力を得ています。

本学では、本プログラムにおいて以下の3つのユニットを開講します。それぞれのユニットは関連しており、全てのユニットに合格し、修了判定を経ると学校教育法（法第105条等）に基づく「履修証明書」を交付いたします。

基礎科目（講義・演習型科目）では、シニアの起業に必要とされる知識及びスキルの修得・定着を目指します。必修科目1科目と選択科目4科目のうち2科目以上を選択して受講してください。

事例研究型科目「事業デザイン要論」では、シニアの起業に必要とされる事業開発手法の修得を目指します。基礎科目（講義・演習型科目）の必修科目「東京経済事情」1科目を受講し、選択科目2科目における合格が受講条件となります。

PBL型科目「シニアスタートアップ特論」は、現実の課題に対してグループで取り組み、具体的な作業を行いながら解決に導くことで経験や業務遂行能力を高めていくものです。事例研究型科目「事業デザイン要論」における合格が受講条件となります。

※この募集要項は「基礎科目（講義・演習型科目）」の要項であり、「事例研究型科目」、「PBL型科目」は、対象者に改めて配布します。

(1コマ90分)

| ユニット名 | 区分 | 科目名 | コマ数 | 時間 | 開講期間 |
|--------------------|--------|-------------|-----|------|---|
| 基礎科目 (講義・演習型科目) | 【必修科目】 | 東京経済事情 | 8コマ | 12時間 | 令和元年8月16日から 令和元年9月27日まで (東京経済事情は、 2月までを予定) |
| | 【選択科目】 | 経営戦略要論 | 8コマ | 12時間 | |
| | 【選択科目】 | マーケティング要論 | 8コマ | 12時間 | |
| | 【選択科目】 | ファイナンス要論 | 8コマ | 12時間 | |
| | 【選択科目】 | ITイノベーション要論 | 8コマ | 12時間 | |

※必修科目に加え、選択科目の中から2科目以上受講する必要がある



募集・選考：基礎科目の必修科目1科目を受講し、選択科目2科目における合格判定を受けた者から選考

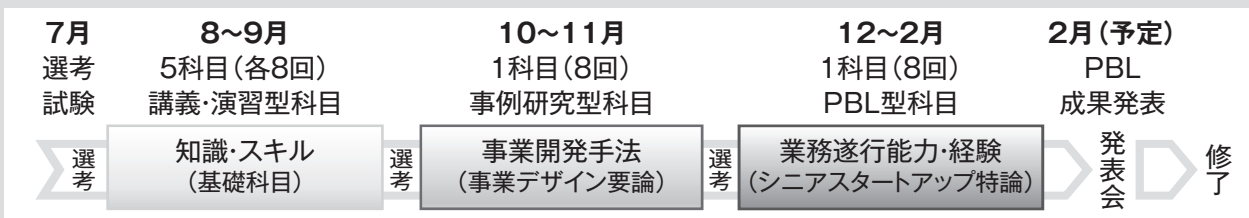
| ユニット名 | 区分 | 科目名 | コマ数 | 時間 | 開講期間 |
|---------|--------|----------|-----|------|-----------------------------|
| 事例研究型科目 | 【必修科目】 | 事業デザイン要論 | 8コマ | 12時間 | 令和元年10月19日から 令和元年11月9日まで |



募集・選考：事例研究型科目「事業デザイン要論」における合格判定を受けた者から選考

| ユニット名 | 区分 | 科目名 | コマ数 | 時間 | 開講期間 |
|--------|--------|--------------|-----|------|--|
| PBL型科目 | 【必修科目】 | シニアスタートアップ特論 | 8コマ | 12時間 | 令和元年12月8日から 令和2年2月2日まで (2月に報告会を予定) |

カリキュラム概要



●授業は平日夜間、土日に行います。

8~9月 基礎科目（講義・演習型科目） 1科目必修及び2科目以上選択（定員各20名程度）

☆シニア起業に必要とされる知識・スキルの修得・定着 ※必修科目のみ

10~11月 事例研究型科目 1科目（定員20名程度） 8月から翌年2月まで開講予定（全8回）

☆シニア起業に必要とされる事業開発手法の修得

11月中旬 キャンプ形式のアイデアソン（別途ご案内）

12~2月 PBL型科目 1科目（定員10名程度）

☆東京都の現状から問題を設定し、課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

2 出願資格

次の要件（年齢及び学歴等）に該当する者

| 年齢要件（※1） | 学歴等要件（※2） |
|--|---|
| 2020（令和2）年3月31日現在、50歳以上の者（1970（昭和45）年4月1日以前に生まれた者） | 次の各号のいずれかに該当する者 （1）日本の大学を卒業した者 （2）学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者〔大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者〕 <u>（3）外国において学校教育における16年の課程を修了した者</u> <u>（4）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者</u> <u>（5）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育制度における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者</u> （6）専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 （7）文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号） <u>（8）その他本学において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者</u> |

（※1）令和2（2020）年3月31日現在で50歳未満の方は、事前にご相談ください。ご年齢と出願状況等により、出願を認めることがあります。

（※2）学歴等要件（3）、（4）、（5）、（8）に該当して出願しようとする方については、出願資格の事前審査を行います。事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には選考手数料は不要です。お間違いのないようご注意ください。（詳細は4ページ参照）

3 定員（各選択科目）

20名程度

※基礎科目は、必修科目に加えて、選択科目を最低2科目受講する必要があります。

※選択科目について、3科目以上の受講を希望する方は、出願時に申請することができます。3科目以上の受講は、選考に合格し、定員の状況により3科目、4科目の受講が認められることがあります。なお、受講が認められた場合は、一部の科目を辞退することはできません。

4 受講期間

基礎科目（講義・演習型科目）の予定は以下のとおりです。

| | |
|----------------|---|
| オリエンテーション | 令和元年8月11日（日・祝）13時から16時まで（予定）必修 令和元年8月12日（月）12時30分から14時30分まで（予定） 任意参加（情報システム実習等） |
| 基礎科目（講義・演習型科目） | 令和元年8月16日（金）から令和元年9月27日（金）まで （東京経済事情は2月までを予定） |

※受講する選択科目によって講義の開始日・終了日が異なります。（詳細は6ページ参照）

5 講義時間

本プログラムは、平日夜間、土日に講義を予定

※科目によって講義時間が異なります。(詳細は6ページ参照)

6 選考手数料及び納入方法

【選考手数料】 10,000円

※基礎科目(講義・演習型科目)の出願・選考時のみ必要となります。

※事前審査対象の方は、事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。

【納入方法】 コンビニエンスストア及びクレジットカード等での支払い

選考手数料は、以下(1)または(2)のいずれかの方法で期限内にお支払いください。支払い最終日は、令和元年7月4日(木)23時までとなります。(詳細は7ページ参照)

なお、納入された選考手数料は理由の如何にかかわらず返還いたしませんので、予めご了承ください。また、お支払いで生じる事務手数料は出願者の負担となります。

(1) コンビニエンスストアで支払った場合

レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。そして、「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書(様式2)の所定箇所に貼付してください。

(2) クレジットカードで支払った場合(その他のペイジー対応ATM等もあり)

支払い後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された〔受付番号〕と〔生年月日〕を入力して【収納証明書】を印刷してください。そして、印刷した【収納証明書】を出願書類に同封してください。

7 受講料

1科目 20,000円(各基礎科目)

※受講料については、選考の結果により受講科目が確定した後、合否通知と同時にお知らせします。また、納入方法についても、合否通知の際に併せてご案内します。

例) 基礎科目(講義・演習型科目) 受講料パターン

- ・ 選択科目2科目受講する場合：必修科目1科目20,000円 + 選択科目2科目40,000円 = 60,000円
- ・ 選択科目3科目受講する場合：必修科目1科目20,000円 + 選択科目3科目60,000円 = 80,000円
- ・ 選択科目4科目受講する場合：必修科目1科目20,000円 + 選択科目4科目80,000円 = 100,000円

※基礎科目以降、カリキュラムを進めた場合、事例研究型科目20,000円、PBL型科目20,000円の受講料が別途かかります。

※11月中旬に予定しているPBLキャンプに参加する場合も別途参加費がかかります。

8 出願

I. 事前審査対象の方

「2 出願資格」の(3)、(4)、(5)、(8)の出願資格により出願しようとする方は、以下のとおり出願資格の事前審査を行いますので、提出期間内に以下の必要書類を提出してください。

※事前審査対象の方は、事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には、選考手数料のお支払いは不要です。お間違いないようご注意ください。

| | |
|------------|----------------------------------|
| 事前審査申請期間 | 令和元年5月27日(月)から6月12日(水) 必着 |
| 事前審査の結果通知 | 令和元年6月14日(金) 郵送予定 |
| 事前審査を通過した方 | 事前審査を通過した方は出願受付期間内に出願してください。 |

| 出願資格 | [事前審査申請] 必要書類 |
|---------------|--|
| (3)、(4)、(5)の者 | <ul style="list-style-type: none">・ 出願資格審査申請書(様式1) 9ページ参照・ 出身大学の卒業証明書又は卒業証書(日本語又は英語訳添付)(発行日不問、コピー可) ※注意: 事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。 |
| (8)の者 | <ul style="list-style-type: none">・ 出願資格審査申請書(様式1) 9ページ参照・ 最終学歴出身学校の卒業証明書又は卒業証書(日本語又は英語訳添付)(発行日不問、コピー可)・ 業務従事歴や研究従事歴等を記した書類(様式任意)・ 上記業務従事歴等を証明する書類 ※注意: 事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。 |

II. 事前審査対象外の方 (Iでの事前審査を通過した方も含む)

「2 出願資格」の(1)、(2)、(6)、(7)の出願資格により出願しようとする方は、以下の期間に出願書類を提出期間内に必要書類を提出してください。

なお、選考手数料の支払い最終日は、令和元年7月4日(水)23時00分までとなります。ご注意ください。

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 出願書類提出期間 | 令和元年5月27日(月)から7月5日(金) 必着 |
| 選考試験受験票発送 | 令和元年7月9日(火) 郵送予定 |

| 出願資格 | [出願] 必要書類 |
|--------------------------------------|---|
| (1)、(2)、(6)、(7)の者 (事前審査を通過した方も含む) | <ul style="list-style-type: none">・ 受講願書(様式2) 10ページ参照・ 「収納証明書を出願書類の所定台紙に貼付」もしくは「印刷した【収納証明書】を出願書類に同封」7ページ参照・ 科目受講申請書(様式3) 11ページ参照・ 出身大学の卒業証明書又は大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書(発行日不問、コピー可) |

出願方法 (I・II共通)

必要書類を一括して郵送してください。

・ 郵送先: 「12 問い合わせ先」に記載(5ページ参照)

※書留、ゆうパック及びレターパックなど発送から配達までの送達過程の記録が残る形で発送してください。普通郵便で発送した場合の郵便事故については本学で責任を負いません。

※個人情報の取り扱いについて、出願にあたり提出された個人情報は、出願手続き、試験、合否発表、受講手続きなど、本プログラムの運営に関する目的以外には一切使用いたしません。

※原則として、提出された出願書類は返却いたしません。

9 選考（基礎科目受講）

- ・ 選考内容：論文試験（予め定められたテーマによる論文試験）
文字数は1,000字以上2,000字以内（使用言語は主に日本語とする）
論文テーマは、本学ホームページでお知らせします。
（令和元年5月27日（月）14時頃公開予定）
掲載ページはこちら https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/
- ・ 選考日：令和元年7月15日（月・祝）10時30分から12時まで
- ・ 受験票：令和元年7月9日（火）郵送予定
※令和元年7月11日（木）までに通知が届かない場合は、必ず本学までお問い合わせください。
- ・ 会場：産業技術大学院大学（12ページ参照）

10 合否通知

令和元年7月22日（月）郵送予定

※令和元年7月25日（木）までに通知が届かない場合は、必ず本学までお問い合わせください。

11 修了要件（履修証明書交付要件）

各科目の修了認定については、本学ホームページに掲載するシラバスの評価に基づき評価を行います。

また、本プログラムにおける履修証明書交付要件は、「基礎科目（講義・演習型科目）」、「事例研究型科目」、「PBL型科目」の3つのユニットの全ての必修科目に合格し、かつ、「基礎科目（講義・演習型科目）」の選択科目2科目に合格することです（合計60時間以上を修了）。履修証明書の交付要件を満たした方は、修了判定を経て学校教育法に基づく履修証明書が交付されます。

掲載ページ https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

12 問い合わせ先

本プログラムに関するお問い合わせ先及び出願書類等の郵送先は以下のとおりです。

※原則として、問い合わせ時間は平日の9時から17時まで（12時から13時までを除く）

産業技術大学院大学OPI企画運営係

AIITシニアスタートアッププログラム担当

〒140-0011 東京都品川区東大井一丁目10番40号

TEL：03-3472-7833（受付時間 9時から17時（平日のみ））

FAX：03-3472-2790

E-Mail：senior-startup@aiit.ac.jp

■開設科目一覧・日程予定表

(1コマ90分)

| ユニット名 | 区分 | 科目名 | 時間数 | コマ数 | 回 | 開講予定日 | 曜日 | 時限 | 時間 |
|--------------------|-------------|----------------|------|--------|-------|--------|-------|---------------|---------------|
| オリエンテーション | - | オリエンテーション1 | 3時間 | - | 1 | 8月11日 | 日 | - | 13時00分～16時00分 |
| | - | オリエンテーション2 | 2時間 | - | 2 | 8月12日 | 月 | - | 10時30分～14時30分 |
| 基礎科目 (講義・演習型科目) | 必修 | 東京経済事情 | 12時間 | 8コマ | 1 | 8月21日 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 2 | 8月28日 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 3 | 9月25日 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 4 | 未定 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 5 | 未定 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 6 | 未定 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 7 | 未定 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | | | | | 8 | 未定 | 水 | - | 19時00分～20時30分 |
| | 選択 | 経営戦略要論 | 12時間 | 8コマ | 1 | 8月16日 | 金 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 2 | 8月23日 | 金 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 3 | 9月6日 | 金 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 4 | 9月20日 | 金 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | 選択 | マーケティング要論 | 12時間 | 8コマ | 1 | 9月3日 | 火 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 2 | 9月10日 | 火 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 3 | 9月12日 | 木 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 4 | 9月24日 | 火 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | 選択 | ファイナンス要論 | 12時間 | 8コマ | 1 | 9月11日 | 水 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 2 | 9月18日 | 水 | 6・7時限 | 18時30分～21時40分 |
| | | | | | 3 | 9月21日 | 土 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 |
| | | | | | 4 | 9月27日 | 金 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 |
| 選択 | ITイノベーション要論 | 12時間 | 8コマ | 1 | 8月17日 | 土 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 | |
| | | | | 2 | 8月31日 | 土 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 | |
| | | | | 3 | 9月7日 | 土 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 | |
| | | | | 4 | 9月14日 | 土 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 | |
| 事例研究 型科目 | 必修 | 事業デザイン要論 | 12時間 | 8コマ | 1 | 10月19日 | 土 | 6時限 | 18時30分～20時00分 |
| | | | | | 2 | 10月27日 | 日 | 3・4・5時限 | 13時00分～18時00分 |
| | | | | | 3 | 11月4日 | 月 | 3・4・5時限 | 13時00分～18時00分 |
| | | | | | 4 | 11月9日 | 土 | 6時限 | 18時30分～20時00分 |
| PBL キャンプ | - | PBLキャンプ・アイデアソン | 1泊2日 | | 1 | 11月23日 | 土 | - | -- |
| | | | 2 | 11月24日 | 日 | - | -- | | |
| PBL型 科目 | 必修 | シニアスタートアップ特論 | 12時間 | 8コマ | 1 | 12月8日 | 日 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 |
| | | | | | 2 | 12月22日 | 日 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 |
| | | | | | 3 | 1月19日 | 日 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 |
| | | | | | 4 | 2月2日 | 日 | 3・4時限 | 13時00分～16時15分 |

| 時限 | 授業時間 |
|----|---------------|
| 1限 | 9時00分～10時30分 |
| 2限 | 10時40分～12時10分 |
| 3限 | 13時00分～14時30分 |
| 4限 | 14時45分～16時15分 |
| 5限 | 16時30分～18時00分 |
| 6限 | 18時30分～20時00分 |
| 7限 | 20時10分～21時40分 |

※開講予定は変更することがありますので、最新情報は必ず本学ホームページをご確認ください。

※「東京経済事情」の開講予定日が「未定」となっている回については、10月から2月の間で開講予定です。

※各科目の授業概要及び講師は、本学ホームページに掲載するシラバスをご確認ください。

掲載ページ

https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

本プログラムは平日夜間、土日に講義を予定

産業技術大学院大学(AIITシニアスタートアッププログラム) 選考手数料払込方法

1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。



<https://e-shiharai.net/>

本学HP
からも
アクセス
できます！

学校一覧から、産業技術大学院大学(AIITシニアスタートアッププログラム)を選択してください。

- ※番号取得後に入力ミスに気づいた場合はその番号では支払いを行わず、もう一度入力し直して、新たな番号を取得してお支払いください。支払い期限内に代金を支払わなかった入力情報は、自動的にキャンセルされます。
- ※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込みを確定する前に内容をよくご確認ください。

※確定画面に表示される番号をメモしてください。

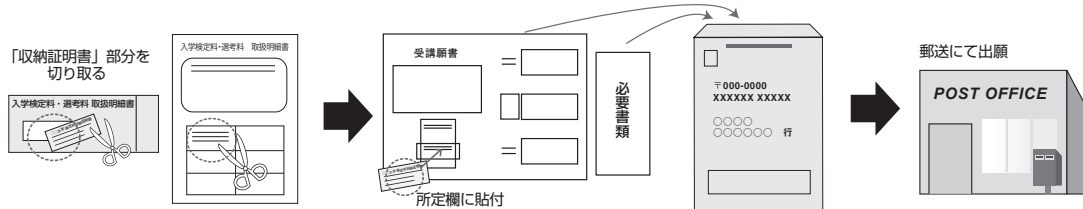


2 お支払い

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| <p>セブン-イレブン 【払込票番号:13ケタ】</p> <p>●レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、印刷した【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えてお支払いください。</p> <p>マルチコピー機は使用しません</p> | <p>ファミリーマート 【お客様番号:11ケタ】 【確認番号:4ケタ】</p> <p>Famiポートへ ↓ 代金支払い ↓ 各種代金お支払い ↓ 番号入力画面に進む</p> <p>【お客様番号】 【確認番号】 入力</p> | <p>デイリーヤマザキ 【オンライン決済番号:11ケタ】</p> <p>レジにて「オンライン決済」と店員に言い、【オンライン決済番号】をお伝えください。</p> <p>セイコーマート 【オンライン決済番号:11ケタ】</p> <p>クラブステーション へ 「インターネット受付 各種代金お支払い」 【オンライン決済番号】を入力</p> | <p>ペイジー対応ATM ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他</p> <p>「税金・各種料金(ペイジー)」を選択 ↓ 収納機関番号に【58021】と入力 ↓ 【お客様番号】 【確認番号】を入力 ↓ 支払方法を選択(現金またはキャッシュカード)し、料金をお支払い</p> | <p>VISA Mastercard JCB Amex</p> <p>※お支払いされるカードの名義人は、出願者本人でなくても構いません。但し、「基本情報入力」画面では、必ず出願者本人の情報を入力してください。</p> |
| <p>ローソン・ミニストップ 【お客様番号:11ケタ】 【確認番号:4ケタ】</p> <p>Loppi へ ↓ 各種サービスメニュー ↓ 各種代金・インターネット受付 ↓ 各種代金お支払い ↓ マルチペイメントサービス 【お客様番号】 【確認番号】 入力</p> | <p>ペイジー対応ネットバンク ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他</p> <p>ネットバンキングにログインし、「税金・各種料金の払込(ペイジー)」をクリック ↓ 収納機関番号に【58021】と入力 ↓ 【お客様番号】 【確認番号】を入力 ↓ 画面上で金額を確認し、料金をお支払い(口座引落扱い)</p> | <p>ネット専門銀行 楽天、じぶん、ジャパンネット銀行他</p> <p>お申し込み確定画面から「ネットバンクでの支払い」をクリック ↓ 支払う銀行を選択して、インターネットバンキングにログイン <small>※一部、アプリを利用している店舗等では、お支払サイトの「申込内容照会」からログインしてください。その際は、11ケタのお客様番号が必要です。</small> ↓ 払込内容を確認し、料金をお支払い(口座引落扱い)</p> | <p>Web申込みの際に、支払いに利用するカードを選択 ↓ 画面の指示に従い、支払手続を行ってください。</p> | |
| <p>レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。</p> | | <p>支払い完了後、E支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力して【収納証明書】を印刷してください。 ※スマートフォン等でお申込みされた方は、プリンタのある環境でご利用ください。</p> | | |

3 出願

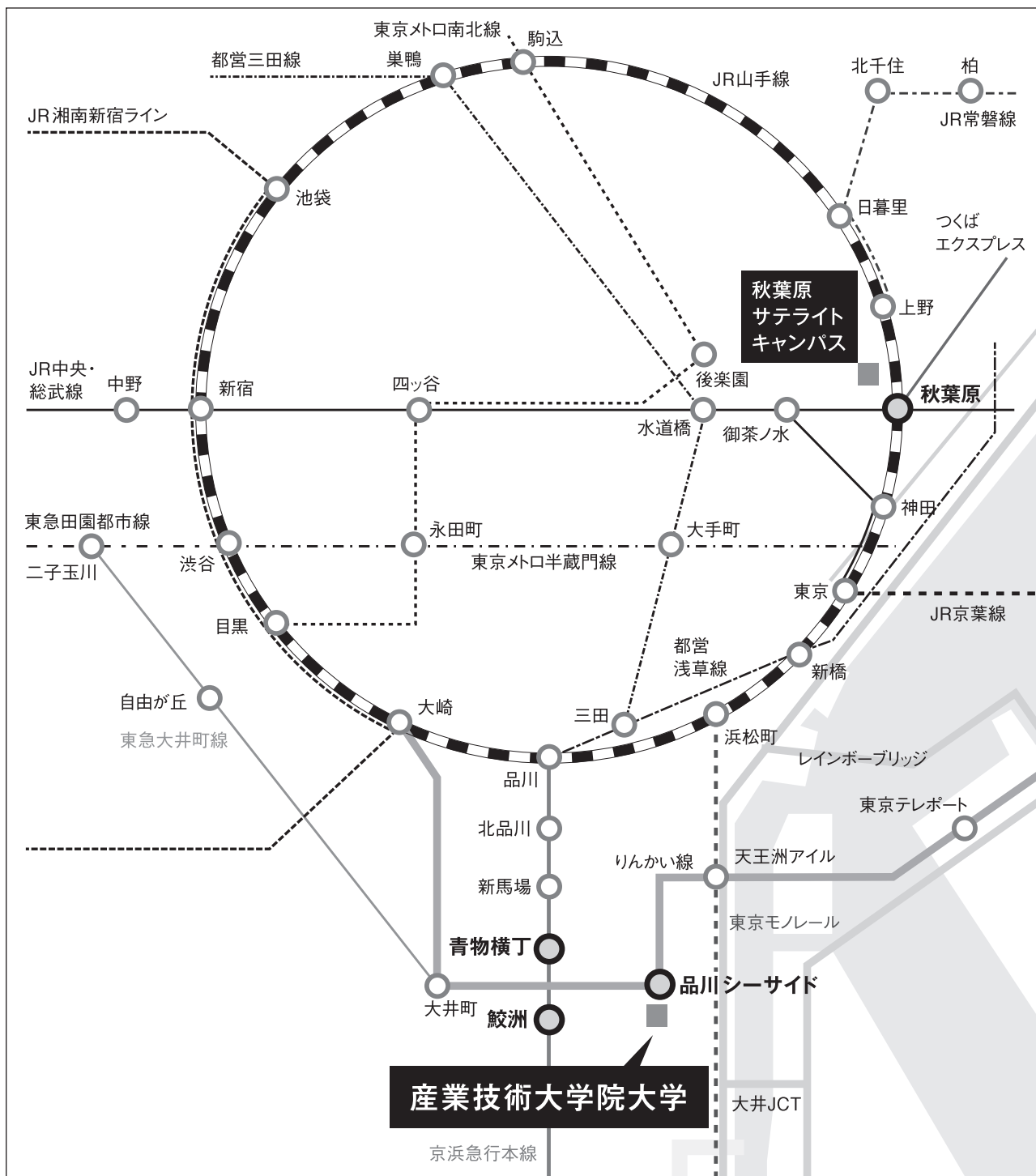
「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書の所定欄に貼る。



⚠ 注意事項

- 出願期間を募集要項等でご確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日の「Webサイトでの申込み」は23:00までとなります。
- 「選考手数料払込」についてのお問い合わせは、コンビニ店頭ではお答えできません。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。
- 一度お支払いされた選考手数料は返金できません。
- セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート以外でお支払いの方は、支払い完了後、E支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、「収納証明書」を印刷して出願書類に貼付してください。
- 「申込内容照会」で収納証明書が印刷できるのは、セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート以外でお支払いされた場合に限りです。
- 選考手数料の他に事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- 取扱いコンビニ、支払方法は変更になる場合があります。変更された場合は、Webサイトにてご案内いたします。

交通アクセス



事前審査対象の方のみ提出

No.

※この欄は記入不要です。

産業技術大学院大学 令和元(2019)年度 AIITシニアスタートアッププログラム
出願資格審査申請書

| 区分 | 姓 | Middle | 名 | 生年月日 | 年 月 日 | |
|---|----------------------------|--------|---|-------------|--------------------|----------|
| フリガナ | | | | 年 齡 | 歳 (令和2年3月31日現在) | |
| 氏名 | | | | 性 別 | 男・女 | |
| アルファベット | | | | 国 籍 | | |
| 現住所 | 〒 電話 メールアドレス | | | | | |
| 日本国内連絡先 (本人と速やかに連絡が とれるところ 同上の場合は記入不要) | 〒 電話 メールアドレス | | | | | |
| 学 歴 | 区分 | 学 校 名 | | 正規の 修業年限 | 入学及び 卒業年月日 | 在学 年数 |
| | 中等教育 (中学校) | | | 年 | ～ 年 月 月 | 年 |
| | 中等教育 (高等学校) | | | 年 | ～ 年 月 月 | 年 |
| | 高等教育 (大学) | | | 年 | ～ 年 月 月 | 年 |
| | | | | 年 | ～ 年 月 月 | 年 |
| | 計 | | | | 年 | |
| 職 歴 ・ 研 究 歴 | 勤務先・研究所等の名称 ※直近の勤務先等から順に記入 | | | 役職 | 従事期間 | 年数 |
| | | | | | ～ 年 月 月 | 年 |
| | | | | | ～ 年 月 月 | 年 |
| | | | | | ～ 年 月 月 | 年 |
| | | | | | ～ 年 月 月 | 年 |
| | | | | | ～ 年 月 月 | 年 |
| 計 | | | | | | 年 |

※事前審査を通過した後、本プログラムに出願することができます。

なお、事前審査申請時には選考手数料は不要です。お間違いないようご注意ください。

※事前審査の結果通知：令和元年6月14日(金)郵送予定。

No.

※この欄は記入不要です。

産業技術大学院大学 令和元(2019)年度 AIITシニアスタートアッププログラム 受 講 願 書

写真貼付

縦 4 cm × 横 3 cm
上半身、脱帽、正面
向き、3カ月以内で
撮影したもの

※写真の裏面に
氏名を記入

| | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------------------|----------------------|---------|----------|----------|----------|--------------------------|----------|-------|--|--|
| ふりがな | | | | | | | | | | | |
| 氏名 | | | | 性別 | 男・女 | 生年月日 | 年 月 日 | | (歳) | | |
| 現住所 | 〒 ー | | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 電話番号 () | 携帯電話 () | メールアドレス | 日中の連絡先 | 名称 | 電話番号 () | ※左記以外で、本人と速やかに連絡が取れる電話番号 | | | | |
| 学 歴 | 高校 | 国立 公立 私立 外国(国名:) | | 高等学校 | 年 月 日 | | 卒業 | | | | |
| | 大学 | 国立 公立 私立 外国(国名:) | | 大学 学科 | 学部 専攻 | 年 月 日 | | 卒業 卒見 | | | |
| | その他 | 国立 公立 私立 外国(国名:) | | | | 年 月 日 | | 卒業 卒見 | | | |
| 職 歴 | 年 月 ~ 年 月 | | | | | | | | | | |
| | 年 月 ~ 年 月 | | | | | | | | | | |
| | 年 月 ~ 年 月 | | | | | | | | | | |
| | 年 月 ~ 年 月 | | | | | | | | | | |
| 現在の職業 | 勤務先所在地 勤務先・所属 職 名 (TEL) | | | | | | | | | | |

■「収納証明書」部分を切り取り、以下の枠内に貼付してください。

※コンビニエンスストアで支払った場合、レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書」を受け取ってください。そして、「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、受講願書(様式2)の所定箇所に貼付してください。
 ※クレジットカードで支払った場合(その他のペイジー対応ATM等もあり)、支払い後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された[受付番号]と[生年月日]を入力して【収納証明書】を印刷してください。そして、印刷した【収納証明書】を出願書類に同封してください。
 ※事前審査対象の方は、事前審査を通過後、本プログラムに出願することができます。なお、事前審査申請時には選考手数料のお支払いは不要です。お間違いないようご注意ください。

No.

※この欄は記入不要です。

産業技術大学院大学 令和元(2019)年度 AIITシニアスタートアッププログラム 科目受講申請書

| | | | |
|------|--|------|------------------------|
| ふりがな | | 生年月日 | 年 月 日 |
| 氏名 | | | (歳) (令和2年3月31日現在) |

■受講を希望する選択科目の第1希望～第4希望まで順位を付してください。(第2希望までは必須です。)

※当プログラムは、必修1科目に加えて選択科目を最低2科目受講する必要があります。

| ユニット名 | 区分 | 科目名 | 受講希望科目 |
|--------------------|--------|-------------|--------|
| 基礎科目 (講義・演習型科目) | 【必修科目】 | 東京経済事情 | 必 修 |
| | 【選択科目】 | 経営戦略要論 | 第 希望 |
| | 【選択科目】 | マーケティング要論 | 第 希望 |
| | 【選択科目】 | ファイナンス要論 | 第 希望 |
| | 【選択科目】 | ITイノベーション要論 | 第 希望 |

■3科目以上受講を希望する場合、☑を記入

※選択科目について、3科目以上の受講を希望する方は、以下の欄に☑を記入してください。選考に合格し、定員の状況により受講が認められることがあります。ただし、3科目以上の受講を希望しない場合は、☑を記入しないでください。

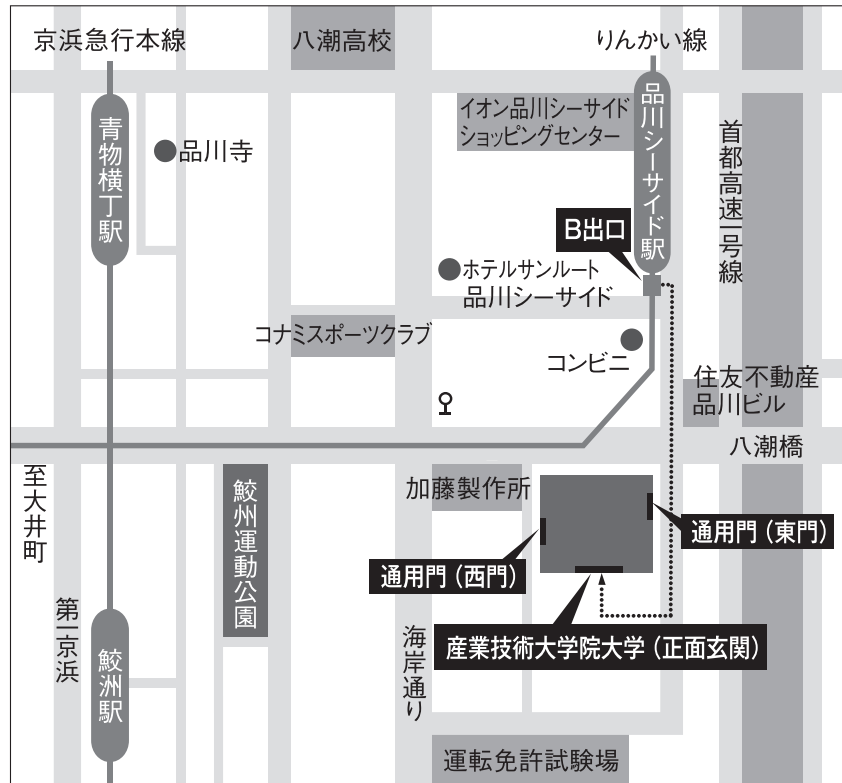
なお、受講が認められた場合は、一部の科目を辞退することはできません。

第3希望の選択科目を受講希望します

第4希望の選択科目を受講希望します

■試験会場へのアクセス

品川シーサイドキャンパス



<住所>

〒140-0011

東京都品川区東大井一丁目10番40号

■最寄り駅

りんかい線「品川シーサイド駅」B出口 徒歩3分

京浜急行線「鮫洲駅」徒歩9分

京浜急行線「青物横丁駅」徒歩10分

JR 京浜東北・根岸線「大井町駅」徒歩18分

■都営バス

「都立産業技術高専品川キャンパス前」下車徒歩2分

(品川駅港南口 ↔ 八潮パークタウン [品91系統])

(品川駅高輪口 ↔ 大井競馬場 [品93系統])

(大井町駅東口 ↔ 八潮パークタウン [井92系統])



■問い合わせ先

公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学 管理部管理課 OPI 企画運営係

〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40
T E L : 03-3472-7833 F A X : 03-3472-2790
E-Mail : senior-startup@aiit.ac.jp
U R L : http://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

6月22日 令和元年 土

参加費
無料

13:00~15:45 (受付12:00)

公立大学

産業技術大学院大学

履修証明プログラム

AIITシニアスタートアップ プログラム 講演会と説明会

産業技術大学院大学では、起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得することを目指す「AIITシニアスタートアッププログラム」の開講を8月に予定しております。それに先立ち、起業をテーマに講演会(無料)を開催いたします。

また、「AIITシニアスタートアッププログラム」に関心のある方を対象に概要説明をいたします。

場所

Startup Hub Tokyo (スタートアップハブトウキョウ)

東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
TOKYO創業ステーション1F
<https://startuphub.tokyo/access>

[アクセス] ○JRをご利用の場合

- ・JR 東京駅 丸の内南口より 徒歩5分
- ・JR 有楽町駅 国際フォーラム口より 徒歩5分
- 地下鉄をご利用の場合
- ・地下鉄千代田線二重橋前駅 3番出口直結

主催

公立大学
産業技術大学院大学

対象

シニアの起業に関心のある方、学び直しを考えている方、その他一般社会人など
※どなたでも受講可能です(定員:100名)



岩田 真一氏

MIRAISE Partner & CEO /
ATOMICO Partner, Japan
本学客員教授

慶應義塾大学理工学部物理学科卒業。
ソフトウェアエンジニアとしてロータス社、
マイクロソフト社を経て2001年にアリエル・
ネットワーク社の設立に参加。2005年、
Skype Technologies S.A. に入社し、
スカイプジャパン株式会社を設立し代表
取締役役に就任。2012年より欧州のベン
チャーキャピタル ATOMICO に参加。同
社パートナー。2018年、プログラマー起
業家に特化したシードファンド MIRAISE
(ミレイズ)を発足し、パートナーに就任。

Program

13:00~15:45(受付12:00)

- 13:00 ● 開会挨拶
川田 誠一 産業技術大学院大学 学長
- 13:15 (第一部)
- 13:15 ● 基調講演「投資家はスタートアップの何を見ているのか」
14:15 岩田 真一 氏 ATOMICO日本代表パートナー・本学客員教授
(元スカイプジャパン株式会社 代表取締役)
- 14:30 ● パネルディスカッション
15:30 「AIITシニアスタートアッププログラムでの学びについて」
(登壇者) 岩田 真一 氏
平成30年度本プログラム修了生4名
(モデレーター) 亀井 省吾 本学特任教授
- (第二部)
- 15:30 ● 令和元年度AIITシニアスタートアッププログラム説明
15:45 板倉 宏昭 本学附属図書館長 教授

※講演会及び説明会終了後、「AIITシニアスタートアッププログラム」に関する個別相談会を実施する予定です。

※次第および出演者については、一部変更となる場合があります。

お申し込み方法

下記、URL(6/22講演会)からお申し込みください。(先着順)

https://aiit.ac.jp/opi/senior_startup/

FAXの場合は氏名、連絡先を送付ください。

TEL:03-3472-7833 FAX:03-3472-2790

お問い合わせ

産業技術大学院大学 管理部管理課OP|企画運営係



公立大学

産業技術大学院大学

ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY

東京都立産業技術大学院大学

[執筆者]

令和元（2019）年度 AIIT シニアスタートアップ運営委員会

川田 誠一 本学学長

板倉 宏昭 本学教授 本プログラム運営委員会委員長

橋本 洋志 本学産業技術研究科長 本プログラム運営委員会委員

越水 重臣 本学OPI長 本プログラム運営委員会委員

戸沢 義夫 本学特任教授 本プログラム運営委員会委員

三好 祐輔 本学教授 本プログラム運営委員会委員

裏田 勝巳 本学管理部長 本プログラム運営委員会委員

東京都公立大学法人

東京都立産業技術大学院大学

令和元年度 AIIT シニアスタートアッププログラム 事業成果報告書

発行：東京都立産業技術大学院大学

〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40

<https://aiit.ac.jp/>

無断複製等禁止の標記について

成果報告書の無断複製等の禁止の標記については、次によるものとする。

本報告書は、東京都連携事業として、東京都立産業技術大学院大学が実施した令和元年度「AIITシニアスタートアッププログラム」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には東京都立産業技術大学院大学の承認手続きが必要です。